

# 資料編

---

## ◇第5次館山市総合計画策定方針

### (1) 策定の趣旨

本市では、平成28(2016)年度から令和7(2025)年度までの10年間を計画期間とする「第4次館山市総合計画」に基づき、将来都市像に掲げた『笑顔あふれる 自然豊かな「あったか ふるさと」館山』の実現を目指して、まちづくりを進めています。

人口減少や少子高齢化が急速に進む中で、地域の特徴を生かした持続可能な社会づくりを目指す地方創生の進展や、暮らしやすい地域社会を実現するために市民協働が推進されてきました。一方で、令和元(2019)年9月には、令和元年房総半島台風の襲来によって、沿岸部をはじめとする市内各地に甚大な被害がもたらされ、また、令和2(2020)年以降は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行により、市民を取り巻く社会経済環境は大きく変わりました。

このような状況の中、令和7(2025)年には、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者になるなど、社会保障関連経費のさらなる増加が見込まれるほか、これまでに整備した公共施設等の老朽化に伴う対応が必要となるなど、新たに生じる様々な課題に対応し、本市が今後も存在し続けるためには、長期的な視点を持ち、これまで以上に効率的で身の丈に合った行財政運営が求められます。

そのため、令和7(2025)年度をもって計画期間が終了する「第4次館山市総合計画」に代わり、館山市を取り巻く様々な状況の変化に対応する新たな「第5次館山市総合計画」を策定します。

### (2) 策定の視点

第5次館山市総合計画は、次の基本的な視点に基づき策定します。

#### ①社会経済情勢に即した計画づくり

人口減少や少子高齢化のさらなる進行など、本市を取り巻く環境の分析を通じて課題を正しく認識し、時代の潮流を考慮した計画を策定します。

#### ②多様な市民の意見や考えを反映した計画づくり

様々な方法を用い、多様な市民の声を把握した上で計画を策定します。特に、次代を担う若者の意見や考えへの傾聴に努めます。

#### ③市長が公約に掲げた施策の取り込み

基本構想の実現に繋がる、市長が公約に掲げた施策の推進を図ります。

新たに施策を追加する際は、厳しい財政状況を踏まえ、その実現性を最大限考慮して行うこととします。

#### ④総合戦略との関係

地方版総合戦略は、第5次館山市総合計画と関連性が高く、一体的に推進する必要があることから、第5次館山市総合計画に包含します。

#### ⑤現実を見据え、実効性のある計画づくり

厳しい財政状況を踏まえ、限られた資源の有効活用に留意し、選択と集中による事業の優先順位の明確化を図ります。また、各項目に掲げる目標の達成に向けた成果指標を設定し、個別事業の実施・評価を行いやすい計画を策定します。

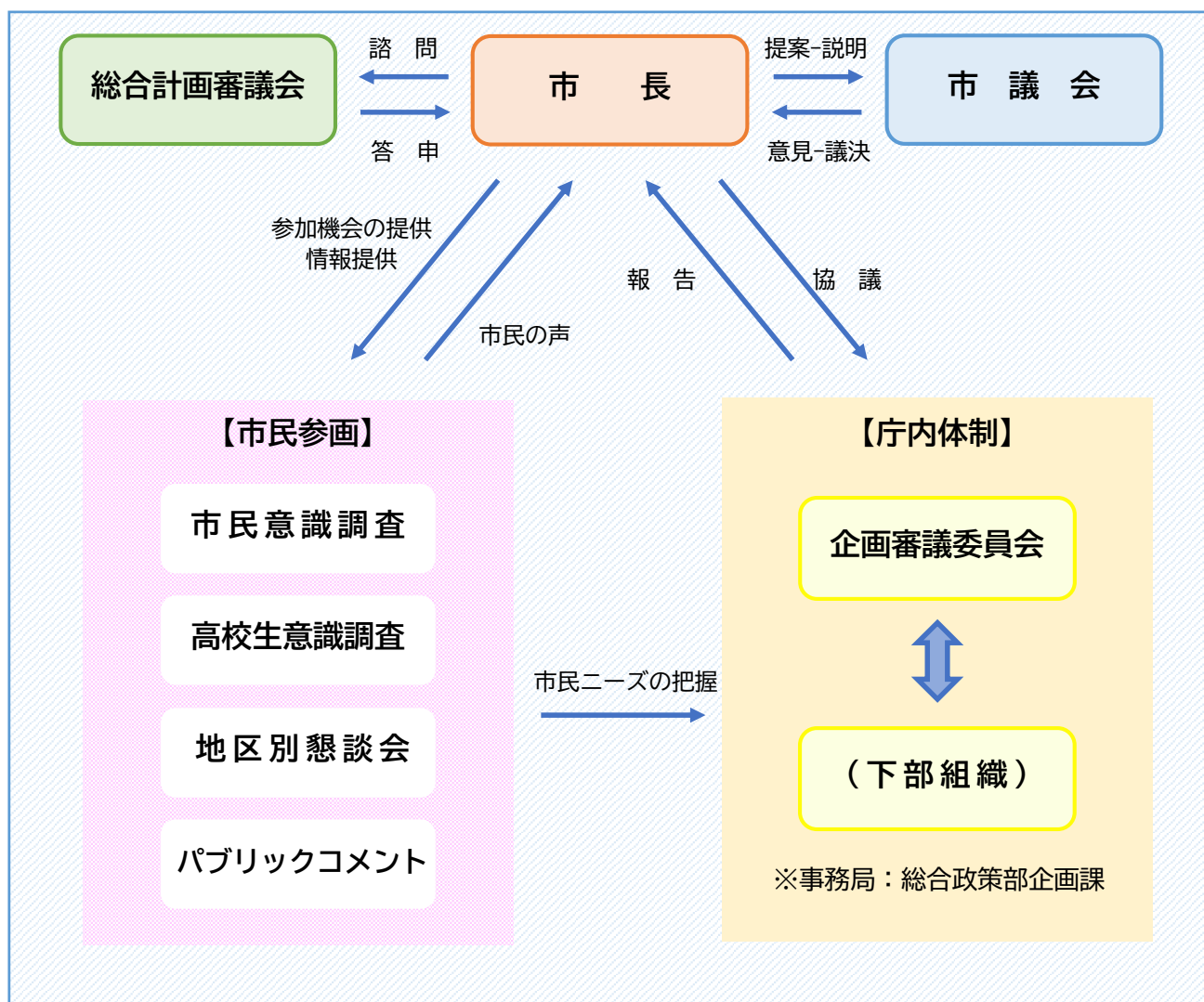
#### ⑥市民協働によるまちづくりを推進する計画づくり

市民、事業者、各種団体、行政などがまちづくりの基本理念を共有し、市民協働の観点から役割を分担し、それぞれが責務を全うすることで、持続可能なまちの実現に繋がる計画づくりに取り組みます。

#### ⑦市民にもわかりやすい計画づくり

計画の構成や施策の体系、成果指標の設定、表現方法については、市民の目線に立ち、わかりやすい計画づくりに努めます。

### ▶第5次館山市総合計画策定体制イメージ



## ◇館山市附属機関設置条例（抜粋）

（目的）

第1条 この条例は、法令に特別の定めあるものを除き、市長の権限に属する事務を処理するための組織について必要な事項を定めることを目的とする。

（附属機関の定義）

第2条 附属機関とは地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第138条の4第3項の規定により設置され市長の諮問に応じて審査又は調査をするための機関をいう。

（設置）

第3条 本市に別表に掲げる附属機関を置き、当該附属機関において担任する事務、組織、委員の構成、定数及び任期は、同表右欄に掲げるとおりとする。

（会長及び副会長）

第4条 会長又は委員長（以下「会長」という。）及び副会長又は副委員長（以下「副会長」という。）は、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、当該附属機関の事務を総理し、当該附属機関を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

4 副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故のあるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指定する者が会長の職務を代理する。

（委員の任命等）

第5条 委員は市長が任命又は委嘱する。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第6条 附属機関の会議は、市長の諮問に応じて会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（会議の運営等）

第7条 この条例で定めるもののほか、附属機関の議事及び運営に関し必要な事項は会長が定める。

（特例）

第8条 この条例の規定にかかわらず法第138条の4第3項の規定に基づき設置された館山市特別職報酬等審議会、館山市情報公開・個人情報保護審議会及び館山市情報公開・個人情報保護審査会の設置、組織及び運営については、それぞれ館山市特別職報酬等審議会条例（昭和39年条例第49号）、館山市情報公開条例（平成16年条例第1号）及び館山市情報公開・個人情報保護審査会条例（令和4年条例第16号）に定めるところによる。

（市長への委任）

第9条 この条例に定めるもののほか必要な事項は、市長が定める。

～以下略～

別表（第3条） ～抜粋～

附属機関名	担任する事務	組織	委員の構成	定数	任期
館山市総合計画審議会	館山市総合計画及び館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略を審議し、これらの実施に関し必要な調査を行い、市長に答申し、又は建議すること。	会長 副会長 委員	市議会議員 産業関係者 行政関係者 教育関係者 金融関係者 労働関係者 報道関係者 知識経験者	25 人以内	2 年

## ◇館山市総合計画審議会委員名簿

【任期】令和6年7月25日～令和8年7月24日

(◎は会長、○は副会長)

※順不同，敬称略

委員構成	氏名	役職	委嘱替え 任期
市議会議員	鈴木 ひとみ	市議会議員	
	東 洋平	市議会議員	
産業関係者	◎ 安田 信之	館山商工会議所 推薦	
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦	
	高橋 實	安房農業協同組合 推薦	R6. 7. 25～ R7. 3. 21
	谷貝 孝雄		R7. 3. 22～
	中島 桂子	公益社団法人安房医師会 推薦	
	上條 長永	一般社団法人館山市観光協会 推薦	R6. 7. 25～ R7. 5. 20
	酒井 伸一		R7. 5. 21～
	田上 重光	館山市地域公共交通会議 推薦	
	福原 巧太	一般社団法人館山青年会議所 推薦	R6. 7. 25～ R6. 12. 31
三平 英司	R7. 1. 1～		
行政関係者	高嶋 洋幸	千葉県安房地域振興事務所 推薦	
教育関係者	守安 委久予	館山市教育委員会 推薦	R6. 7. 25～ R7. 9. 30
	小谷 恵子		R7. 10. 1～
金融関係者	○ 小笠原 潤	館山市金融団（二十日会） 推薦	
労働関係者	伊熊 雅美	館山公共職業安定所 推薦	
報道関係者	本間 裕二	館山記者クラブ 推薦	
知識経験者	秋山 一夫	社会福祉法人館山市社会福祉協議会 推薦	R6. 7. 25～ R7. 6. 12
	中間 正一郎		R7. 6. 13～
	眞 汐 眞 一	館山市町内会連合協議会 推薦	
	石渡 秀嗣	館山市子ども・子育て会議 推薦	
	児玉 秀一	公募委員	
	加藤 美里	公募委員	
高校生	椎葉 美咲	千葉県立安房高等学校	R6. 7. 25～ R7. 3. 31
	石川 暖	千葉県立館山総合高等学校	R6. 7. 25～ R7. 3. 31
	本吉 優海	千葉県立館山総合高等学校	R7. 5. 27～ R8. 3. 31
	芝田 千花	千葉県安房西高等学校	R7. 5. 27～ R8. 3. 31

## ◇第5次館山市総合計画の策定について（諮問）

館企第18号

令和6年7月25日

館山市総合計画審議会

会長 安田 信之 様

館山市長 森 正一

### 「第5次館山市総合計画」の策定について（諮問）

「第5次館山市総合計画」を策定するに当たり、貴審議会のご意見をいただきたく、諮問いたします。

#### 【諮問理由】

本市では、平成28（2016）年度から令和7（2025）年度までを計画期間とする「第4次館山市総合計画」に基づき、将来都市像に掲げた『笑顔あふれる 自然豊かな「あったか ふるさと」館山』の実現を目指して、まちづくりを進めています。

人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の特徴を生かした持続可能な社会づくりを目指す地方創生の進展や、暮らしやすい地域社会を実現するための市民協働が推進されてきました。その一方で、令和元年房総半島台風の襲来や新型コロナウイルス感染症のまん延により、市民を取り巻く社会経済環境は大きく変化しました。

このような状況の中、令和7（2025）年には、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者になるなど、社会保障関連経費のさらなる増加が見込まれるほか、これまでに整備した公共施設等の老朽化に伴う対応が必要となるなど、新たに生じる様々な課題に対応し、本市が今後も存在し続けるためには、長期的な視点を持ち、これまで以上に効率的で身の丈に合った行財政運営が求められます。

そのため、令和7（2025）年度をもって計画期間が終了する現総合計画に代わり、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間を計画期間とする「第5次館山市総合計画」を策定するため、貴審議会委員の皆様から多角的かつ専門的なご意見をいただきたく、諮問いたします。

## ◇第5次館山市総合計画について（答申）

令和7年11月18日

館山市長 森 正一 様

館山市総合計画審議会  
会 長 安田 信之

### 「第5次館山市総合計画」について（答申）

令和6年7月25日付け館企第18号をもって諮問のあった「第5次館山市総合計画」の策定について、次のとおり答申します。

#### 答 申

当審議会では、市民意識調査や高校生意識調査、地区別懇談会、パブリックコメントなどを通じ、広く市民の意見を取り入れながら、総合計画に係る審議を慎重に重ね、令和8年度から令和17年度までを計画期間とする総合計画案を取りまとめました。

まちの将来像とした「みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山」の実現に向け、下記事項に留意しながら、変化し続ける社会情勢にしなやかに対応し、急速な人口減少の抑制や市民の幸福度の向上を目指した施策の展開が図られることを要望します。

#### 記

1. 市民をはじめ、関係団体や企業などの多様な主体と行政とが連携を深め、組織の枠組みにとらわれず、一体となって協働することにより計画を推進されたい。  
また、広域的な課題への対応に当たっては、千葉県や関係市町との連携を強化されたい。
2. 地域の特色や資源に磨きをかけ、当市の新たな魅力や価値を創出することで交流人口や関係人口の拡大を図り、地域経済の更なる発展を目指すとともに、当市への愛着を高め、定住の地として選ばれるまちとなるよう効果的な取組を推進されたい。
3. 人口減少や少子高齢化への対応と、激甚化・頻発化する自然災害等による被害を最小限に抑えるために、コンパクトで効率的かつすべての世代の市民が暮らしやすいと感じられるまちづくりを推進されたい。
4. 将来にわたって持続可能なまちになるべく、長期的な視点に立った事業の選択と集中により、人口規模や財政状況に応じた戦略的な行財政運営に努められたい。
5. 市政の長期ビジョンを示す総合計画に係る審議の過程で顕在化した課題については、市民のより良い生活の実現に資するよう、その解消に最大限努められたい。

以上

## ◇策定経過概要

### ▶令和6年度

月 日	会議名等	内容、検討事項等
6月19日	令和6年度第1回企画審議委員会	令和6年度第1回館山市総合計画審議会議事内容の検討
7月25日	令和6年度第1回館山市総合計画審議会	① 会長の選任及び会長の職務代理者の指定について ② 『第4次館山市総合計画』及び『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について ③ 『第4次館山市総合計画「後期基本計画」』について ④ 『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について ⑤ 『デジタル田園都市国家構想交付金』事業について ⑥ 『第3期館山市デジタル田園都市構想総合戦略』を含む『第5次館山市総合計画』策定に係る諮問について ⑦ 『第5次館山市総合計画策定方針（案）』について ⑧ 『第5次館山市総合計画等策定スケジュール』について ⑨ 『館山市 市民意識調査アンケート』について ⑩ 『地区別懇談会（ワークショップ）』について
8月28日～ 9月20日	市民意識調査 （市民まちづくりアンケート）	【対象者】市内在住16歳以上の市民4,000人（無作為抽出） 【有効回収数】1,549人（有効回収率38.7%）
10月9日	令和6年度第2回企画審議委員会	令和6年度第2回館山市総合計画審議会議事内容の検討
10月23日	令和6年度第2回館山市総合計画審議会	① 「館山市市民意識調査」について ② 『第5次館山市総合計画』の構成 について ③ 指標及び評価方法について ④ 市民参画について
10月26日 11月4日	地区別懇談会 （ワークショップ）	全3回開催 ①館山地区、北条地区、那古地区、船形地区（参加9人） ②西岬地区、神戸地区、富崎地区（参加7人） ③豊房地区、館野地区、九重地区（参加8人）
12月2日～ 12月15日	高意思識調査 （市民まちづくりアンケート）	【対象者】市内及び近隣市の高校に通う高校生1,509人 【有効回収数】715人（有効回収率47.4%）
1月21日	令和6年度第3回企画審議委員会	①地区別懇談会について ②高校生アンケートについて ③序論及び基本構想（案）について
1月24日～ 2月6日	第5次館山市総合計画の策定に係る意見照会（書面）	①序論及び基本構想（案） ②第5次館山市総合計画に係る「将来像」について
2月20日	令和6年度第4回企画審議委員会	令和6年度第3回館山市総合計画審議会議事内容の検討
3月12日	令和6年度第3回館山市総合計画審議会	①「市民意識調査」及び「高校生アンケート」の結果報告 ②地区別懇談会（ワークショップ）の結果報告 ③『第5次館山市総合計画「序論・基本構想」』（原案） ④「将来像」の選考 ⑤パブリックコメントの実施
3月19日～ 4月18日	パブリックコメント （基本構想案）	意見提出56件
3月24日	市議会全員協議会	「第5次館山市総合計画」の策定状況について

## ▶令和7年度

月 日	会議名等	内容、検討事項等
4月16日～ 4月30日	「まちの将来像」に係る高校生アンケート	【対象者】館山市内及び近隣の高校に在学の生徒 (館山総合高校、安房高校、安房西高校、安房拓心高校) 【回答数】560人
5月13日	令和7年度第1回企画審議委員会	令和7年度第1回館山市総合計画審議会議事内容の検討
5月27日	令和7年度第1回館山市総合計画審議会	①『第5次館山市総合計画』策定スケジュールについて ②『第4次館山市総合計画「後期基本計画」』について ③『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について ④『第5次館山市総合計画』について
6月23日	令和7年度第2回企画審議委員会	①前期基本計画(素案)について ②委員への書面による意見照会について
6月25日～ 7月10日	第5次館山市総合計画の策定に係る意見照会(書面)	①前期基本計画(素案)について
7月23日	令和7年度第3回企画審議委員会	令和7年度第2回館山市総合計画審議会議事内容の検討
8月5日	令和7年度第2回館山市総合計画審議会	①デジタル田園都市国家構想交付金効果検証について ②『第5次館山市総合計画「序論」「基本構想」』最終案について ③『第5次館山市総合計画「前期基本計画」』について ④『第5次館山市総合計画「実施計画」』について
8月22日～ 9月2日	第5次館山市総合計画の策定に係る意見照会(書面)	①前期基本計画(原案)(第4章まで) ②地区別ビジョン(素案)
9月17日	令和7年度第4回企画審議委員会	令和7年度第3回館山市総合計画審議会議事内容の検討
9月29日	令和7年度第3回館山市総合計画審議会	①デジタル田園都市国家構想交付金効果検証について ②『第5次館山市総合計画「前期基本計画」』(原案)について ③『第5次館山市総合計画「実施計画」』について
10月1日～ 10月31日	パブリックコメント(前期基本計画)	意見提出87件
11月7日	令和7年度第5回企画審議委員会	令和7年度第4回館山市総合計画審議会議事内容の検討
11月18日	令和7年度第4回館山市総合計画審議会	①『第5次館山市総合計画「前期基本計画」』について ②『第5次館山市総合計画「実施計画」』について ③『第5次館山市総合計画』答申(案)について
11月18日	答申	第5次館山市総合計画について(答申)
11月20日	館山市議会全員協議会	第5次館山市総合計画の策定について
12月22日	令和7年第4回市議会定例会	基本構想議決

# ◇市民意識調査の結果概要（抜粋）

## （１）調査概要

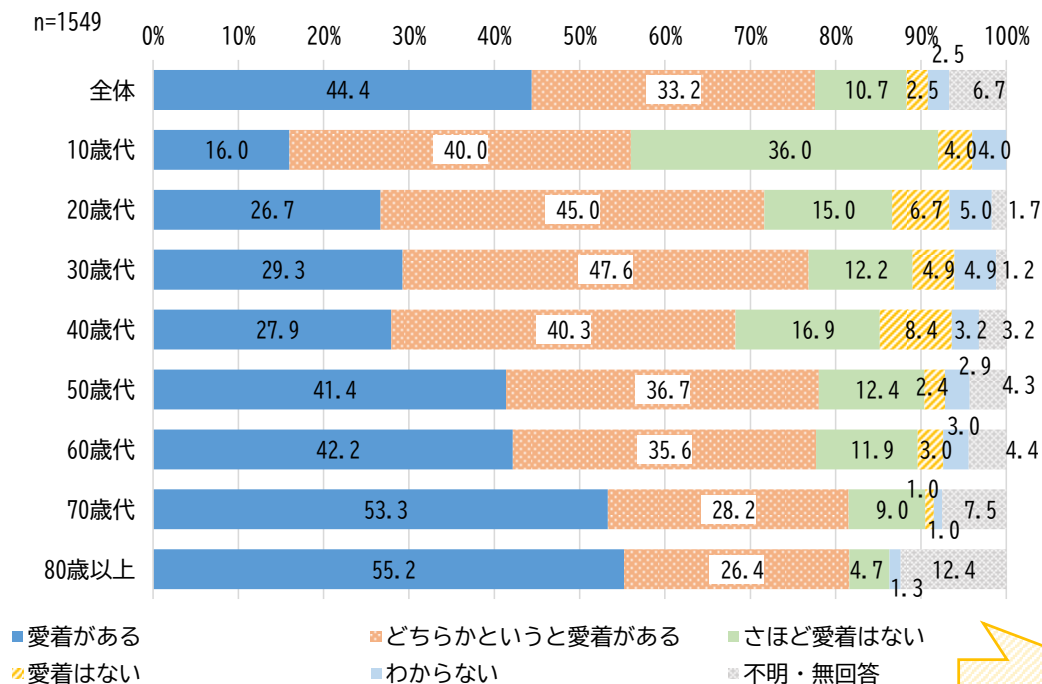
調査対象	16歳以上の市民 4,000人（無作為抽出）
調査方法	配付方法：自宅への調査票郵送 回答方法：WEB回答もしくは郵送提出（いずれか1つを選択）
調査時期	令和6年8月28日（水）～9月20日（金）
有効回収数	1,549人（有効回収率38.7%） ※内訳 WEB回答：273人、郵送回答：1,276人

## （２）調査結果概要

### ▶ 問1 館山市への「自分たちのまち」としての愛着度

全体では、「愛着がある」「どちらかというとな愛着がある」を合わせた『愛着がある』と答えた人が77.6%となっています。

年代別では、50歳代以降では「愛着がある」が最も多くなっていますが、10歳代から40歳代の若い世代では「どちらかというとな愛着がある」が最も多くなっています。また、『愛着がある』が10歳代で56.0%と、他の年代に比べ低くなっています。



年代が上がるにつれて、『愛着がある』の割合が高い傾向にあります。

### ▶ 問3 あなたが考える10年後の館山市のイメージ（複数回答）

全体では、「医療・福祉・介護が充実し、自分らしく暮らせるまち」が48.4%と最も多く、次いで「自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち」が33.3%、「豊かな自然と人々が調和した、持続可能なまち」が28.7%となっています。

年代別では、10歳代で「すべての人が元気ですこやかに暮らすまち」、20歳代で「自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち」がそれぞれ最も多くなっています。

また、20歳代から40歳代で「地域ぐるみで安心して子育てができるまち」が他の年代に比べ高くなっているほか、「生活基盤や防災体制が整い、安心して暮らせるまち」が、年代が上がるにつれて高くなっています。

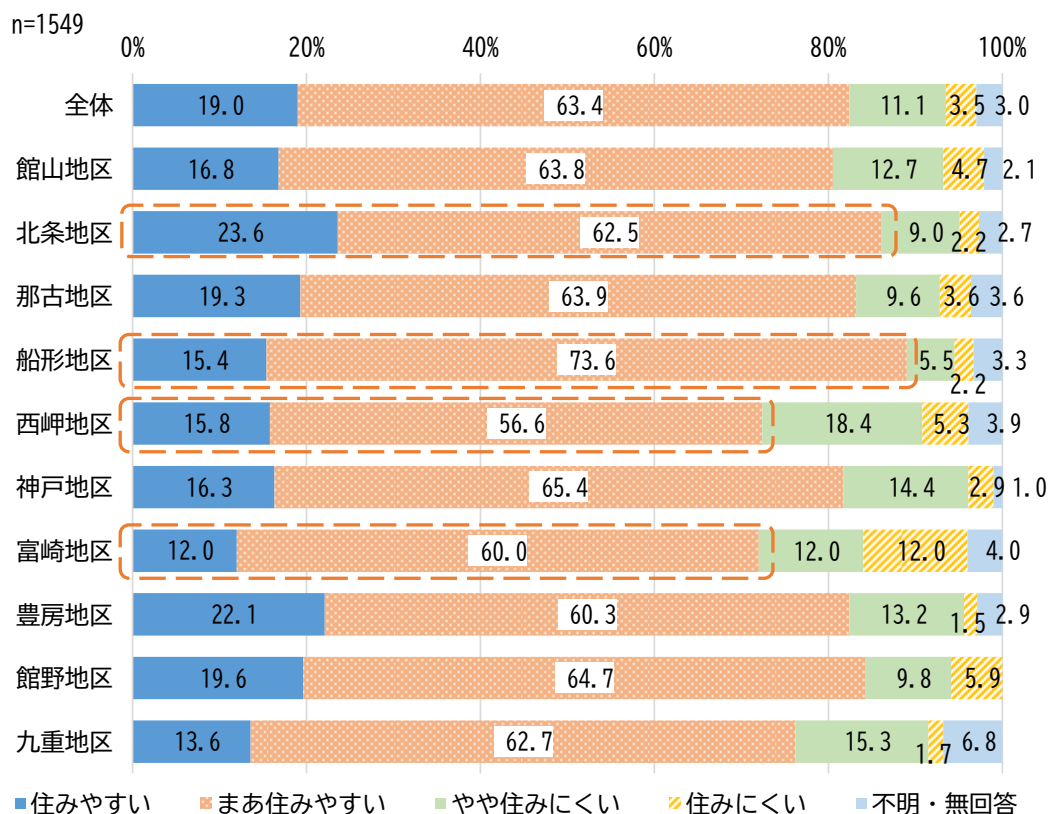
割合 (%)	合計 (人)	すべての人が元気ですこやかに暮らすまち	豊かな自然と人々が調和した、持続可能なまち	地域ぐるみで安心して子育てができるまち	助け合い・支え合いで、みんなで共生できるまち	医療・福祉・介護が充実し、自分らしく暮らせるまち	教育・文化活動やスポーツ活動が盛んなまち	地域に根差した歴史や文化が生きるまち	自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち
全体	1549	25.9	28.7	13.3	16.6	48.4	6.6	7.4	33.3
10歳代	25	40.0	20.0	12.0	20.0	24.0	12.0	24.0	28.0
20歳代	60	18.3	36.7	33.3	6.7	31.7	10.0	15.0	40.0
30歳代	82	12.2	34.1	24.4	11.0	36.6	8.5	8.5	31.7
40歳代	154	16.9	34.4	22.1	10.4	36.4	5.2	7.8	29.9
50歳代	210	17.6	28.6	13.8	13.8	43.8	5.2	8.1	32.4
60歳代	270	26.7	29.3	11.9	15.9	43.7	6.7	8.9	36.3
70歳代	411	30.9	29.2	8.3	17.3	56.2	6.6	6.8	32.8
80歳以上	299	32.8	23.4	9.4	23.7	59.9	5.7	3.3	34.4
%	合計 (人)	活力ある産業と豊かな暮らしを感じられるまち	海辺に人がにぎわう、人や情報の交流が活発なまち	みんなで支え合う、災害に強いまち	生活基盤や防災体制が整い、安心して暮らせるまち	住環境や生活基盤の整う、利便性の高いまち	その他	不明・無回答	
全体	1549	15.0	9.9	11.0	28.1	14.7	3.7	2.9	
10歳代	25	4.0	24.0	12.0	8.0	12.0	-	4.0	
20歳代	60	6.7	20.0	16.7	15.0	15.0	-	1.7	
30歳代	82	9.8	17.1	12.2	18.3	17.1	3.7	2.4	
40歳代	154	12.3	14.3	4.5	19.5	10.4	9.7	2.6	
50歳代	210	16.2	13.3	8.6	22.4	18.1	5.2	2.9	
60歳代	270	15.2	7.8	11.5	29.6	13.0	4.1	1.1	
70歳代	411	15.1	8.3	10.9	31.9	14.8	2.4	3.9	
80歳以上	299	20.4	4.3	13.7	35.5	13.7	2.3	2.7	

年代によって、将来の館山市のイメージに差が見られます。

▶ 問5 館山市の住みやすさ

全体では、「住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせた『住みやすい』が82.4%となっています。

地区別では、「北条地区」や「船形地区」では『住みやすい』が高くなっていますが、「西岬地区」や「富崎地区」では他に比べ低くなっています。

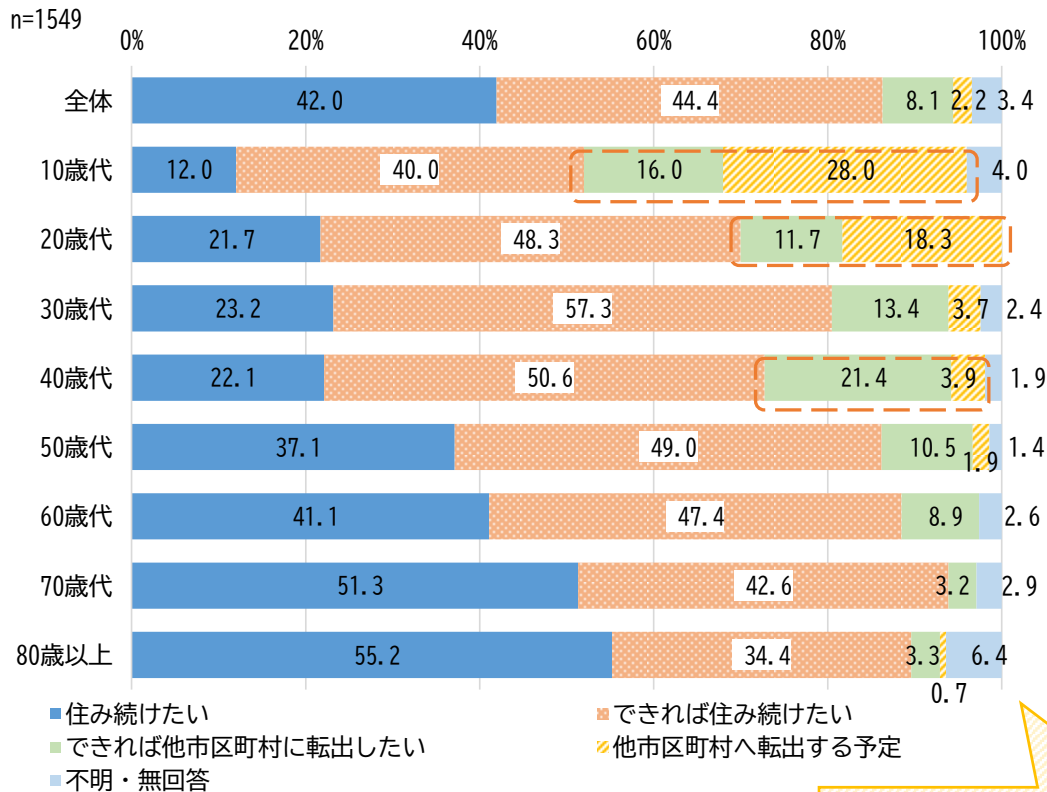


住みやすさについては、地区によって差が見られます。

### ▶ 問 6 館山市に住み続けたいか

全体では、「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』が86.4%となっています。

年代別では、年代が上がるにつれて『住み続けたい』が多くなっています。また、10歳代から20歳代で「他市地区町村へ転出する予定」が多くなっています。



10、20、40歳代の比較的若い年代で、転出の意向が多くなっています。

### ▶ 問 6-1 転出を考えている主な理由（自由回答）

福祉・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、福祉、子育ての環境が良くない</li> <li>・小児科が少なすぎる</li> <li>・医療機関も選択の余地がなく、非常に生活しづらい</li> </ul>
交通・移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物が不便</li> <li>・交通、電車が不便</li> <li>・車の運転が出来ないとどこへも行けない</li> <li>・夜間タクシーがないので緊急時病院にたどりつけない</li> </ul>
仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤め先がない</li> <li>・給与の水準が低すぎる</li> </ul>
教育・進学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学がない</li> <li>・高校など限られた所しかなく子どもの将来が不安</li> <li>・進学のため</li> </ul>
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣トラブル</li> <li>・人間関係が独特</li> <li>・地域の祭りや行事の強制参加を強いる</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家賃が高い</li> <li>・実家があるため</li> <li>・結婚し、転居するため</li> </ul>

▶ 問7 まちづくりの「満足度」とこれからの「重要度」

※施策分野毎に「満足度」と「重要度」のそれぞれの平均点(※)を算出した結果は次のとおりです。

満足度	選択肢	点数	重要度	選択肢	点数
満足	1	5	重要である	1	5
やや満足	2	4	やや重要	2	4
どちらともいえない	3	3	どちらともいえない	3	3
やや不満	4	2	あまり重要でない	4	2
不満	5	1	重要でない	5	1

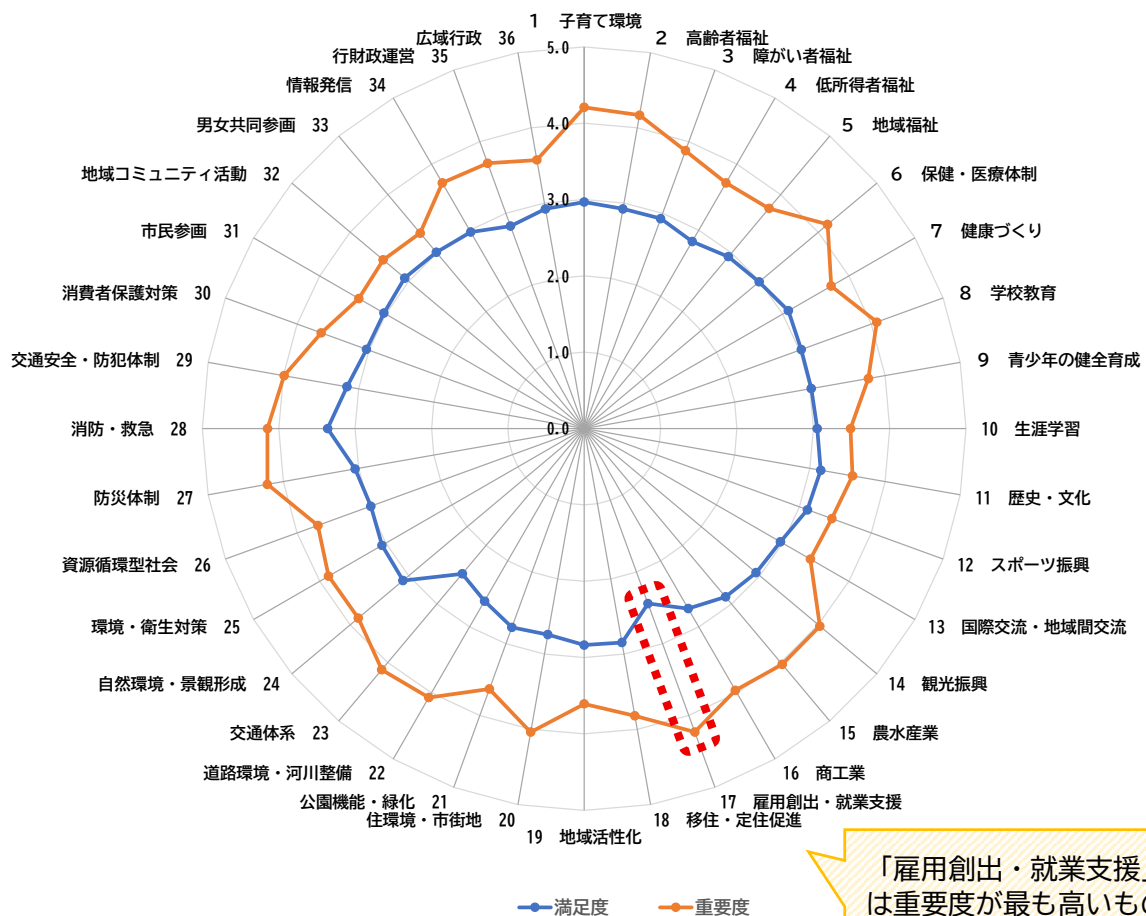
※平均点は、選択肢1~5=5点~1点とし、選択肢×各人数の合計点を点数回答者(1点~5点の総人数)で除した値。

「満足度」が最も高い施策は「28 消防・救急 (3.36)」、次いで「29 交通安全・防犯体制 (3.15)」、「11 歴史・文化 (3.14)」となっています。

最も低い施策は「17 雇用創出・就業支援 (2.44)」、次いで「23 交通体系 (2.48)」、「22 道路環境・河川整備 (2.61)」となっています。

「重要度」が最も高い施策は「17 雇用創出・就業支援 (4.23)」、次いで「1 子育て環境」「27 防災体制 (4.21)」、「2 高齢者福祉 (4.17)」となっています。

最も低い施策は「33 男女共同参画 (3.34)」、次いで「31 市民参画 (3.41)」、「13 国際交流・地域間交流 (3.42)」となっています。



「雇用創出・就業支援」は重要度が最も高いものの、満足度は最も低くなっています。

### ▶ 問8① 現在の幸福度

幸福度については、「5点」が22.1%と最も多く、次いで「7点」「8点」が18.9%、「6点」が11.4%となっています。

年代別では、10歳代から40歳代と60歳代で「7点」（30歳代は「8点」も同率）が最も多くなっています。

割合 (%)	合計 (人)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	不明・無回答
全体	1549	0.8	1.3	2.1	5.5	5.2	22.1	11.4	18.9	18.9	5.7	5.0	3.0
10歳代	25	-	-	-	4.0	4.0	24.0	20.0	28.0	8.0	4.0	4.0	4.0
20歳代	60	-	-	1.7	8.3	3.3	18.3	11.7	30.0	21.7	-	3.3	1.7
30歳代	82	1.2	1.2	4.9	6.1	7.3	12.2	19.5	20.7	20.7	1.2	4.9	-
40歳代	154	2.6	3.2	1.9	6.5	4.5	19.5	14.9	20.1	17.5	3.9	4.5	0.6
50歳代	210	1.0	2.9	3.3	11.4	5.2	21.4	12.9	14.3	18.6	2.9	4.8	1.4
60歳代	270	0.7	0.7	3.0	5.2	7.4	20.0	10.0	20.7	15.9	8.1	5.9	2.2
70歳代	411	0.7	1.0	1.2	3.6	4.9	26.3	8.5	18.5	20.4	6.3	5.6	2.9
80歳以上	299	0.3	0.7	0.3	2.3	4.3	24.4	11.4	16.1	20.4	8.4	5.0	6.4

比較若い年代で「7点」「8点」の回答が多い傾向にあります。

### ▶ 問11 若い世代が館山市に移住・定住するために必要なこと

全体では、「企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大」が56.2%と最も多く、次いで「子育て支援や学校教育環境の充実」が31.6%、「幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上」が27.0%となっています。

年代別では、10歳代で「幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上」、30歳代で「子育て支援や学校教育環境の充実」が最も多くなっています。

割合 (%)	合計 (人)	農林水産業における後継者の育成支援	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	意欲のある若者に対する起業・創業支援	子育て支援や学校教育環境の充実	学力やコミュニケーション能力を向上させる学習機会の充実	大学のサテライトキャンパスや附属高校等の誘致	医療機関の充実	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上	商工業やレクリエーション施設の充実
全体	1549	20.7	56.2	25.6	31.6	5.0	10.5	25.2	27.0	11.7
10歳代	25	8.0	28.0	16.0	24.0	12.0	16.0	36.0	44.0	28.0
20歳代	60	15.0	48.3	13.3	46.7	5.0	16.7	20.0	40.0	16.7
30歳代	82	23.2	40.2	22.0	53.7	6.1	7.3	23.2	24.4	20.7
40歳代	154	16.9	55.8	17.5	44.8	9.1	13.0	26.0	27.9	14.3
50歳代	210	14.8	56.2	16.7	35.7	4.8	8.6	26.7	30.0	17.1
60歳代	270	15.6	63.7	26.3	35.6	3.0	10.0	24.8	28.5	11.1
70歳代	411	26.3	57.7	29.7	23.6	3.4	9.5	26.5	25.5	7.8
80歳以上	299	25.8	56.5	32.8	22.7	6.4	11.7	23.1	22.7	8.0
割合 (%)	合計 (人)	恵まれた自然環境等の都市部へのプロモーション	シビックプライド（まちに対する誇りや愛着）の醸成	購入・賃貸しやすい住宅や住宅地の整備	婚活支援の実施	安全・安心なまちづくりの充実	その他	わからない	不明・無回答	
全体	1549	5.0	2.1	21.6	9.5	15.7	1.5	3.9	2.6	
10歳代	25	-	-	20.0	12.0	20.0	8.0	4.0	-	
20歳代	60	3.3	1.7	38.3	10.0	11.7	-	-	-	
30歳代	82	3.7	-	25.6	11.0	15.9	2.4	1.2	-	
40歳代	154	3.2	3.2	24.0	6.5	9.1	3.2	1.9	0.6	
50歳代	210	8.1	2.9	27.6	8.6	13.8	2.4	2.9	0.5	
60歳代	270	4.8	2.2	20.0	7.0	15.9	1.5	4.4	1.9	
70歳代	411	5.6	1.0	18.2	9.7	18.2	0.7	5.8	2.9	
80歳以上	299	5.0	3.0	17.7	10.4	15.7	0.7	4.3	6.0	

企業誘致・就業機会の拡大についてのニーズは、40歳代以降で特に高くなっています。10、20歳代では、都心へのアクセス向上に対するニーズが約4割と高くなっています。

## ◇高校生意識調査の結果概要（抜粋）

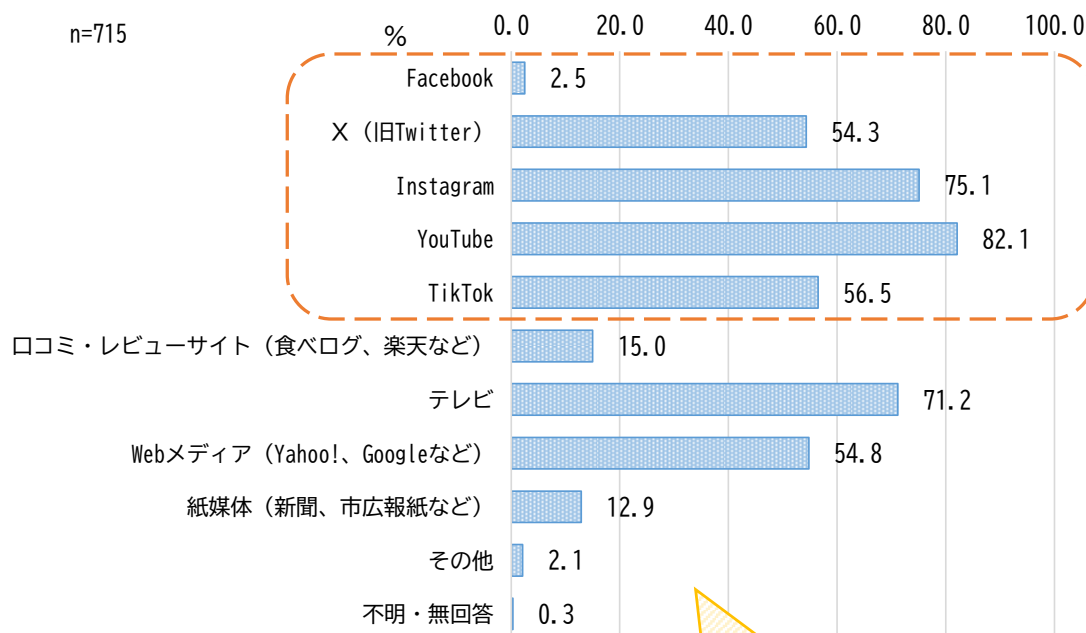
### （１）調査概要

調査対象	館山市内及び近隣の高校に在学の生徒 1,509 人 (館山総合高校、安房高校、安房西高校、安房拓心高校)
調査方法	WEB 回答
調査時期	令和6年12月2日(月)～12月15日(日)
有効回収数	715人(有効回収率47.4%)

### （２）調査結果概要

#### ▶ 問2 情報の入手媒体（複数回答）

全体では、「YouTube」が82.1%と最も多く、次いで「Instagram」が75.1%、「テレビ」が71.2%となっています。



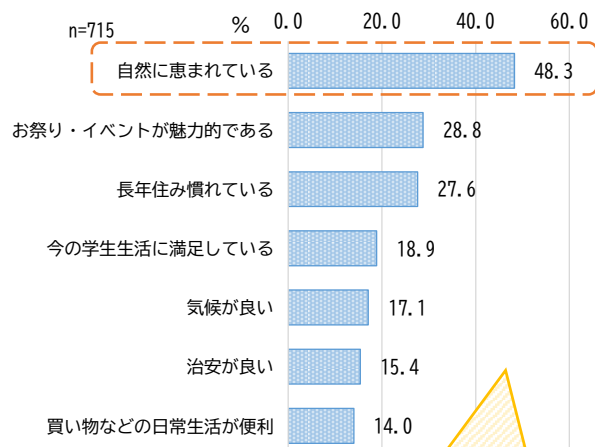
情報の入手先として、SNSの割合はFacebookを除き、いずれも半数以上となっています。

### ▶ 問4・問5 館山市の「住みやすい(好きな)」ところ、「住みにくい(きらいな)」ところ(複数回答)

住みやすい(好きな)点は、「自然に恵まれている」が最も多く、次いで「お祭り・イベントが魅力的である」、「長年住み慣れている」となっています。

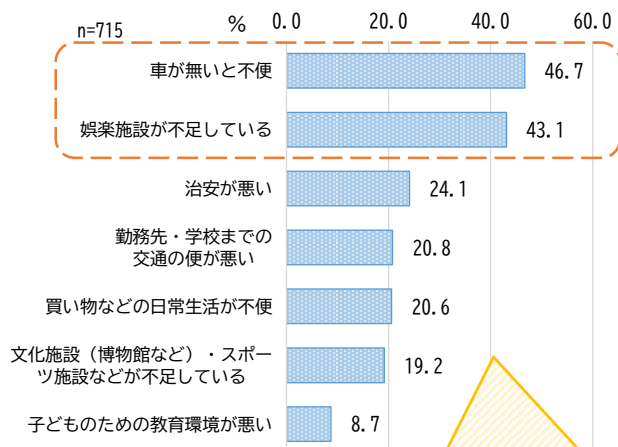
住みにくい(きらいな)点は、「車が無いと不便」が最も多く、次いで「娯楽施設が不足している」、「治安が悪い」となっています。

【住みやすい(好きな)ところ※上位7項目】



「自然に恵まれている」ところは、市民意識調査と同様、館山市の住みやすい点と感じています。

【住みにくい(きらいな)ところ※上位7項目】

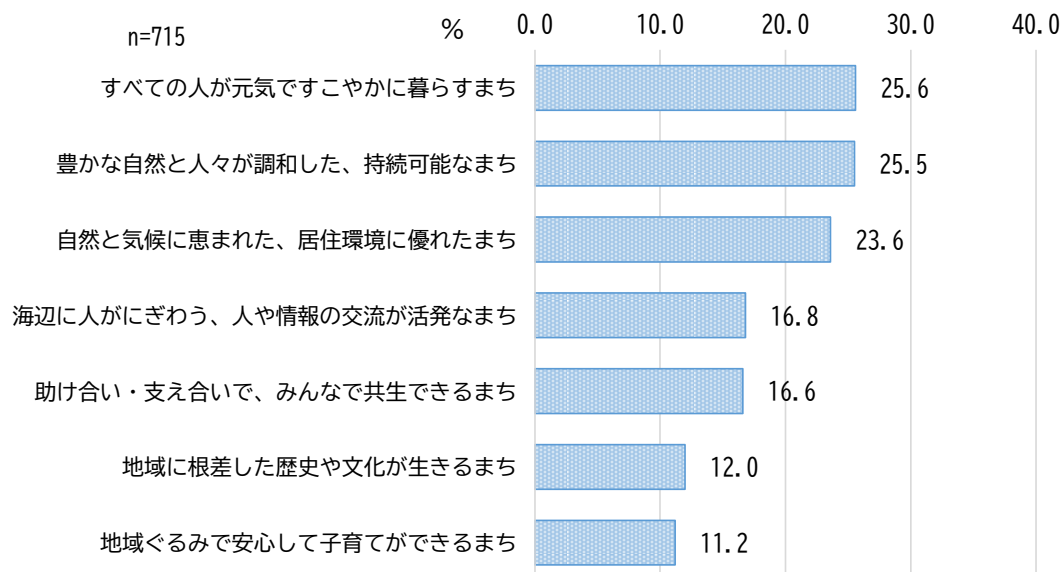


「車が無いと不便」と考える方は市民意識調査と同様に最も高くなっています。また、「娯楽施設が不足している」と感じる方は、市民意識調査と比較して特に高くなっています。

### ▶ 問13 10年後の館山市のイメージ

「すべての人が元気ですこやかに暮らすまち」が25.6%と最も多く、次いで「豊かな自然と人々が調和した、持続可能なまち」が25.5%、「自然と気候に恵まれた、居住環境に優れたまち」が23.6%となっています。

※複数回答・上位7項目



# ◇地区別懇談会（ワークショップ）の結果概要

## ■ワークショップの目的

令和8年度からを計画期間とする『第5次館山市総合計画』の策定にあたり、市民を対象としてお住いの地区の将来について話し合い、その結果を『第5次館山市総合計画』、『館山市都市計画マスタープラン』や『立地適正化計画』での活用を通じて、市民と行政の共通理解に基づいた“まちづくり”を推進しようとするものです。

## ■ワークショップのテーマ

- ① 自分の住んでいる地域や館山市の好きな場所、モノ、コト
- ② 住んでいる地域での困りごとや課題
- ③ あったらいいなと思う、地域が良くなる機能

## ■ワークショップの実施概要

- ・対象者：16歳以上の市民
- ・日時、地区割、会場、参加人数：

No.	実施日など	実施場所	参加人数
①	令和6年10月26日（土） ①午後1時30分～4時30分 館山地区、船形地区、北条地区、那古地区	千葉県南総文化ホール 大会議室	9人
②	令和6年11月4日（月・祝） ①午前9時～12時 西岬地区、神戸地区、富崎地区 ②午後1時30分～4時30分 豊房地区、館野地区、九重地区		15人

・チラシ

**令和6年 私たちとっしょに  
館山市の未来  
を考えてみませんか**  
地区別懇談会（ワークショップ）  
会場：千葉県南総文化ホール 大会議室  
<第5次総合計画・前期基本計画・都市計画マスタープラン・立地適正化計画>

館山市では、令和6年度から2か年をかけて次期総合計画（どのような「まち」にしていくかの最終的方針）を決定していきます。  
そこで、市民の皆さんと、お住いの地区の将来についてテーマに沿って話し合っ  
ていただき、その結果を、次期総合計画に生かしたいと考えています。  
ご参加いただける方は、下記のURLからお申し込みください。  
なお、申込多数の場合は抽選となりますのでご了承ください。抽選の結果につい  
ては、改めてご連絡いたします。

**日程**  
10月26日① 午前9時～12時 館山地区（12名）、船形地区（6名）  
午後1時30分～4時30分 北条地区（12名）、那古地区（6名）  
11月4日②③ 午前9時～12時 西岬地区、神戸地区、富崎地区（各地区6名）  
午後1時30分～4時30分 豊房地区、館野地区、九重地区（各地区6名）

**定員** 16歳以上の市民

**参加方法** 地区ごとにグループを作り、意見交換を行います。

**ご参加** ① お住いの地区の概要や、大切にしたいこと等が、  
② お住いの地区の課題と改善案  
③ お住いの地区を、どのように「まち」にしたいのかなど。

**申込URL** <https://agpform.jp/f/jwq7>  
**申込締切** 9月20日（金）  
申込みはコチラ！

**お問合せ** 館山市 企画課 ☎22-3163

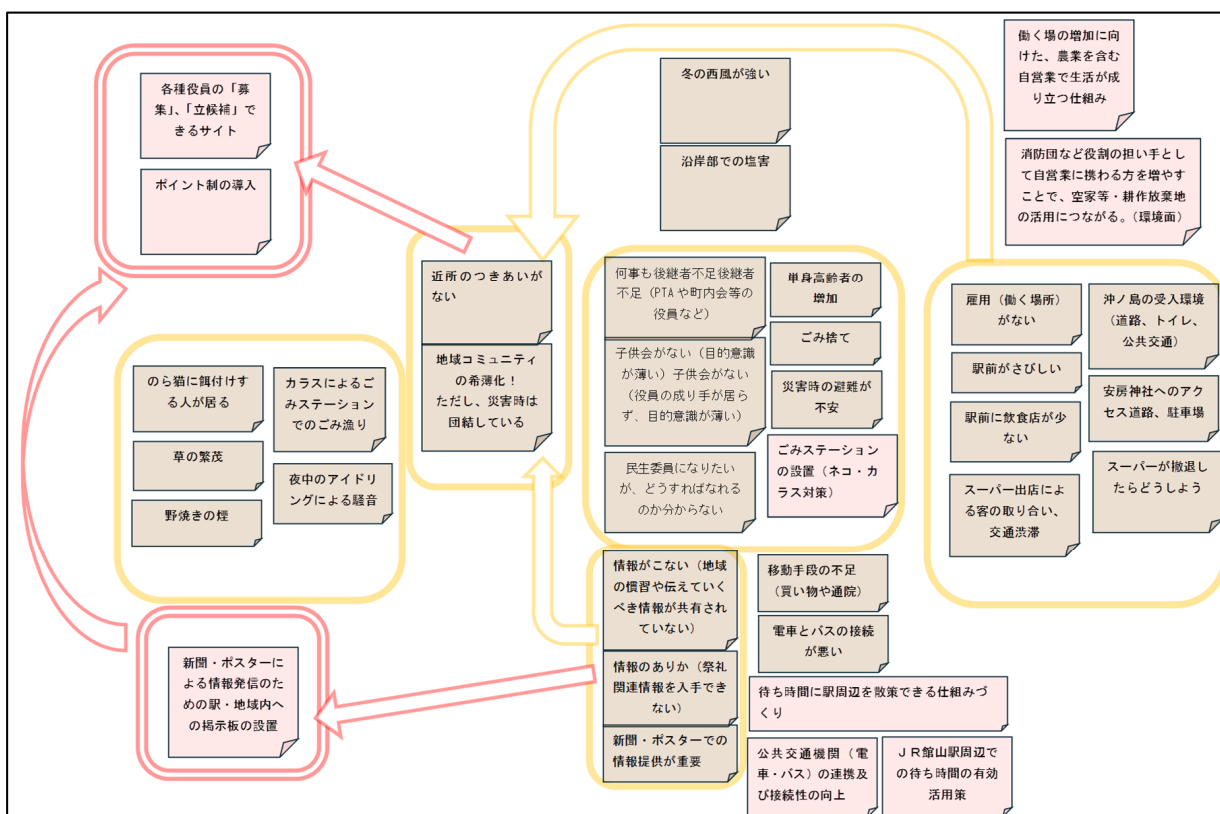
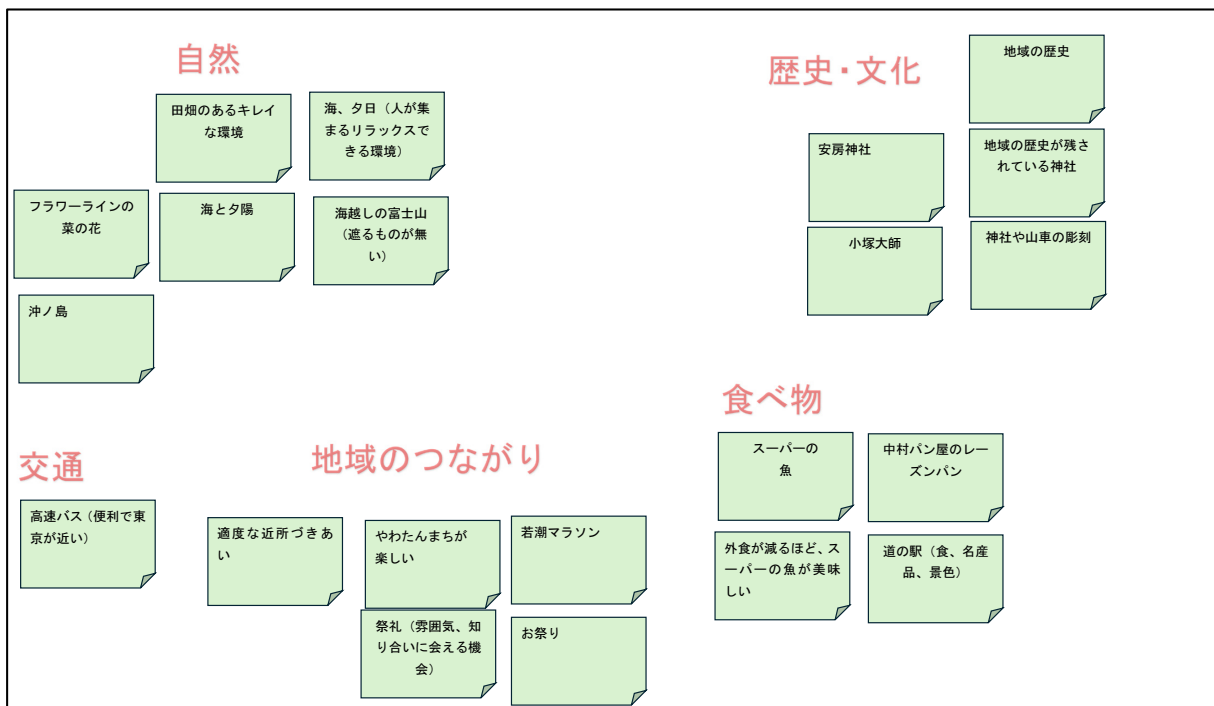
【付箋の分類】

- ① 自分の住んでいる地域や館山市の好きな場所、モノ、コト
- ② 住んでいる地域での困りごとや課題
- ③ あったらいいと思う、地域が良くなる機能



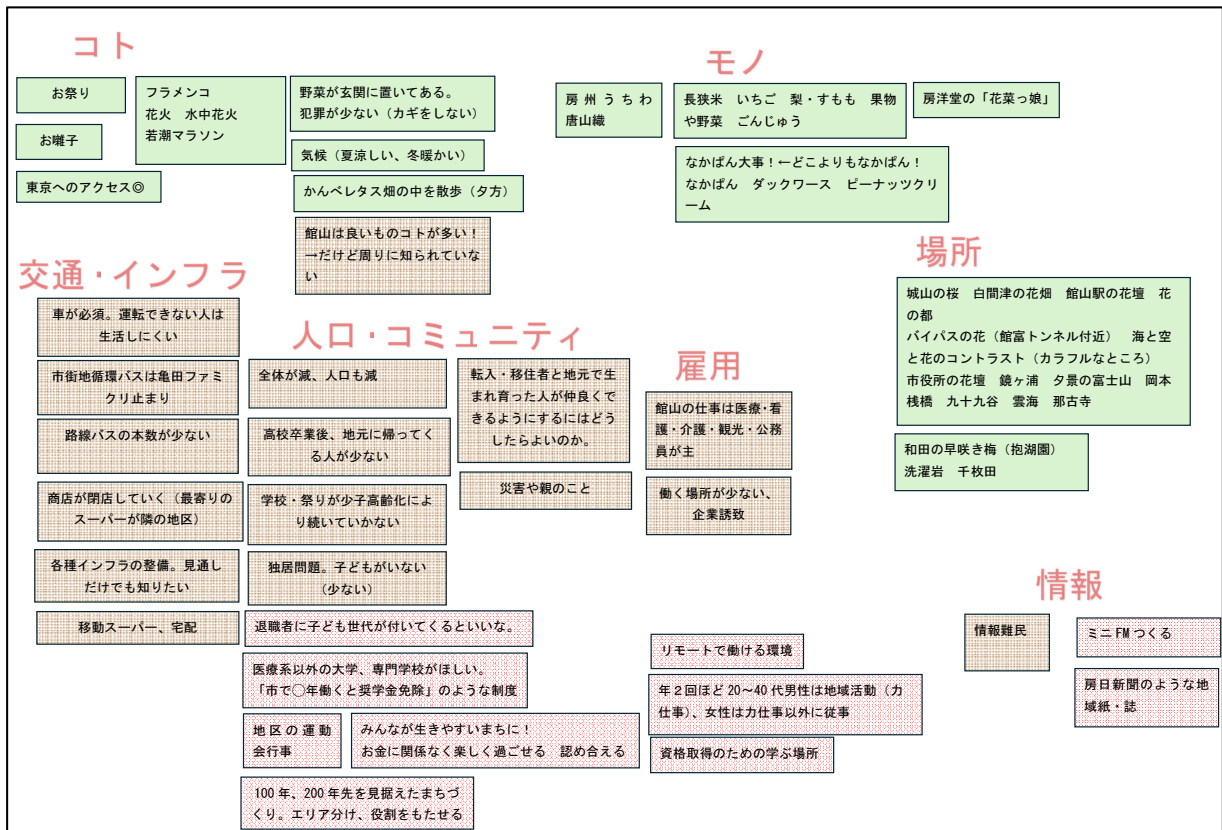
▶ 館山・北条地区

【出された意見の相関図】



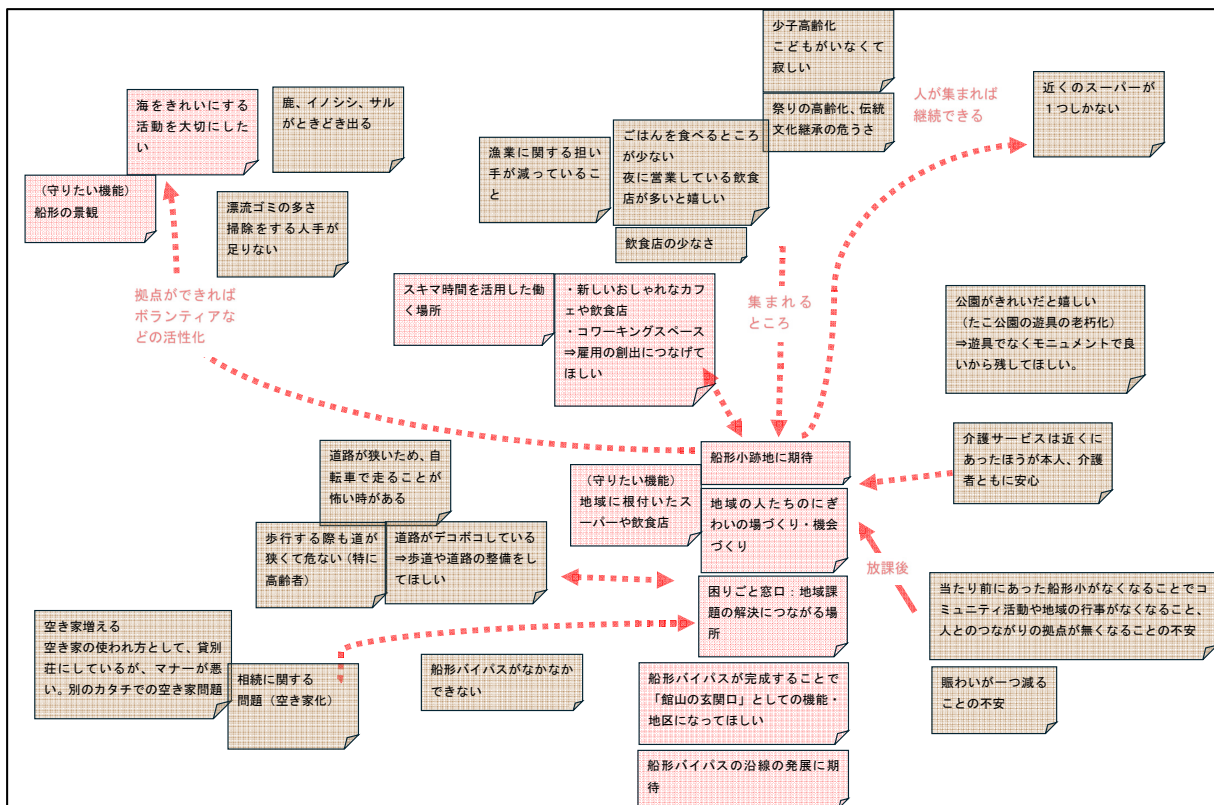
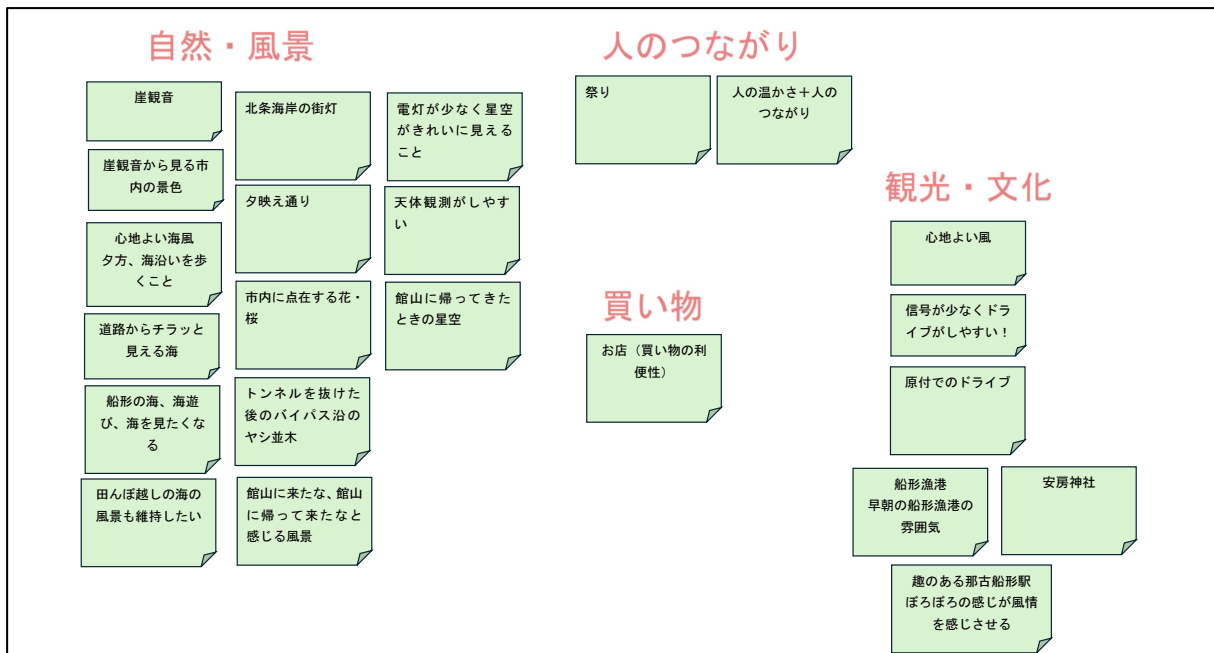
▶ 那古地区

【出された意見の相関図】



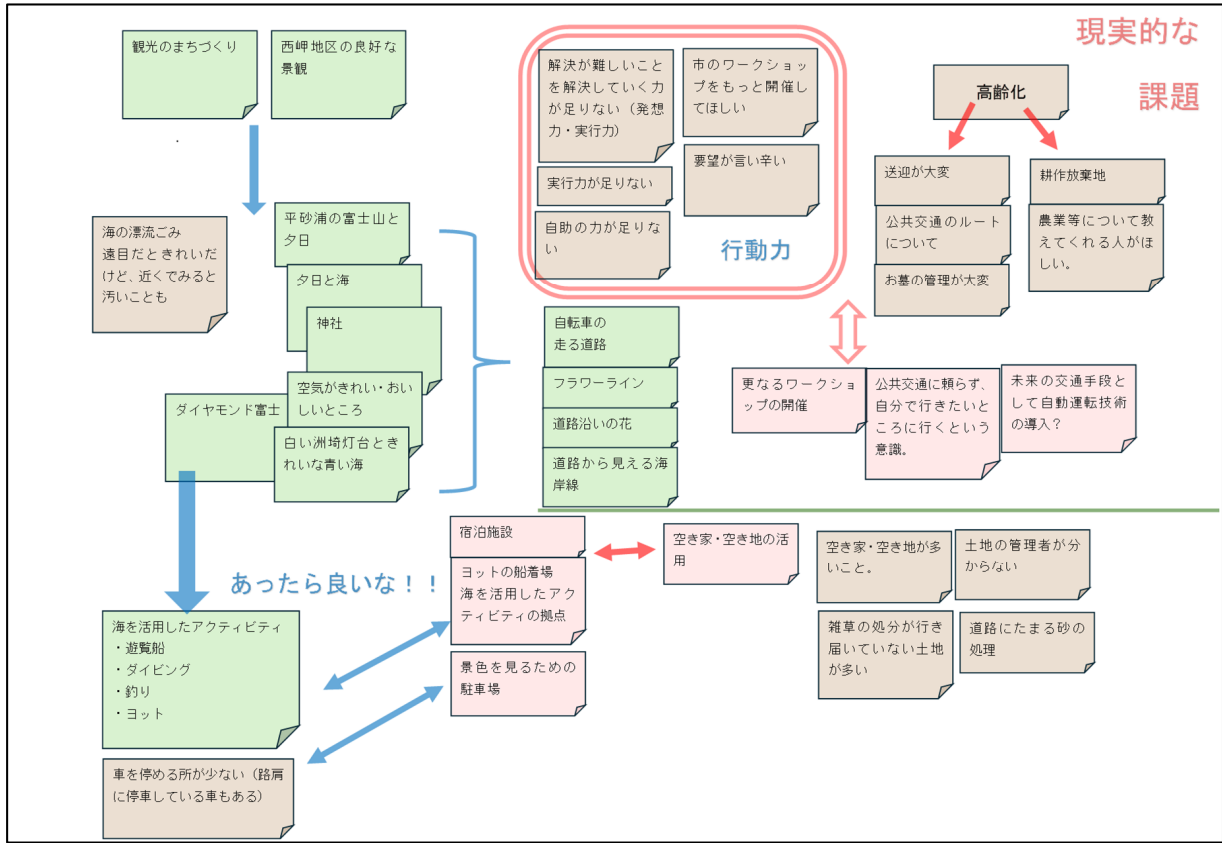
▶ 船形地区

【出された意見の相関図】



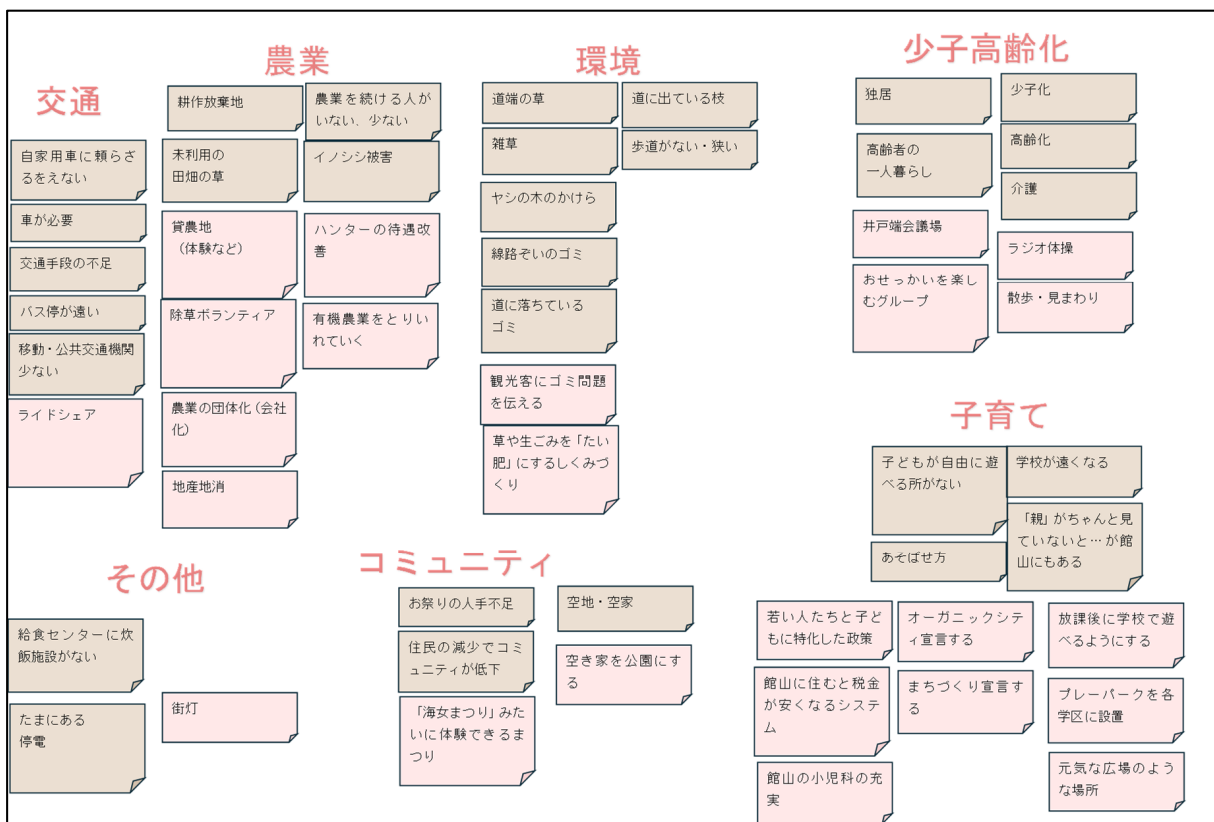
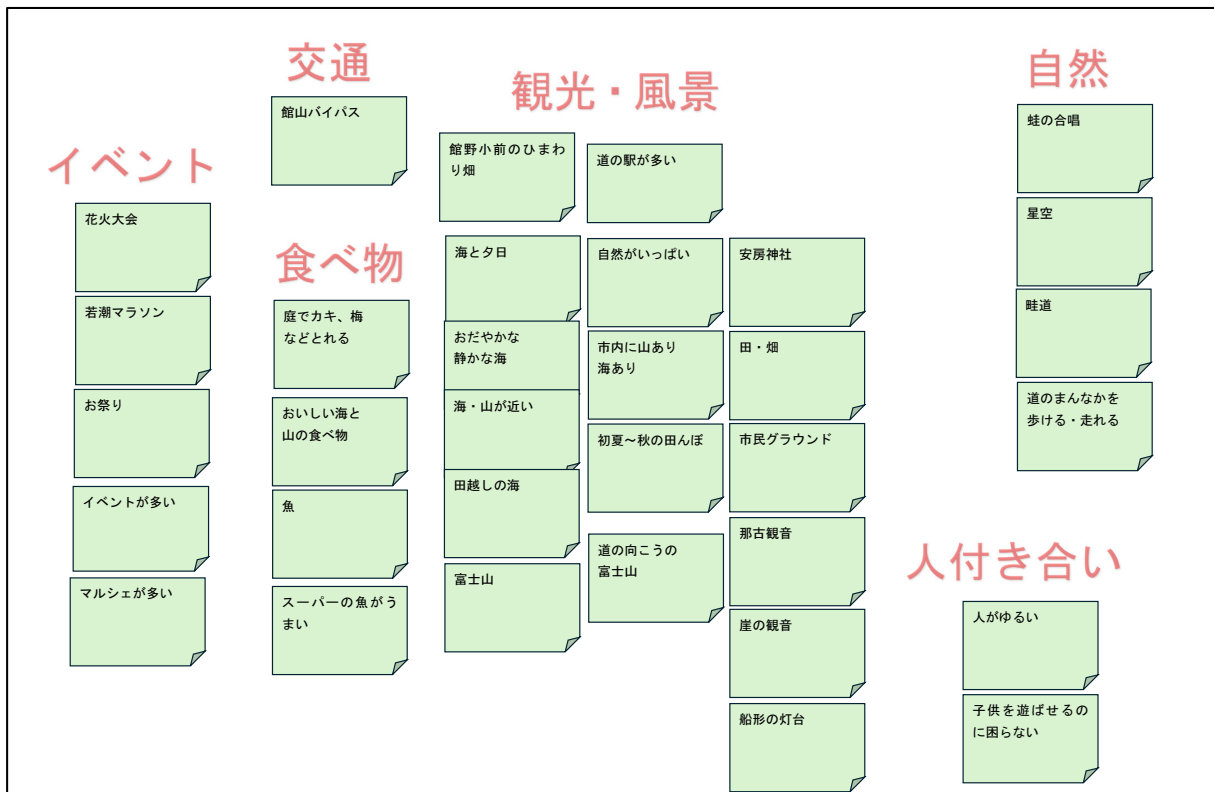
▶ 西岬地区

【出された意見の相関図】



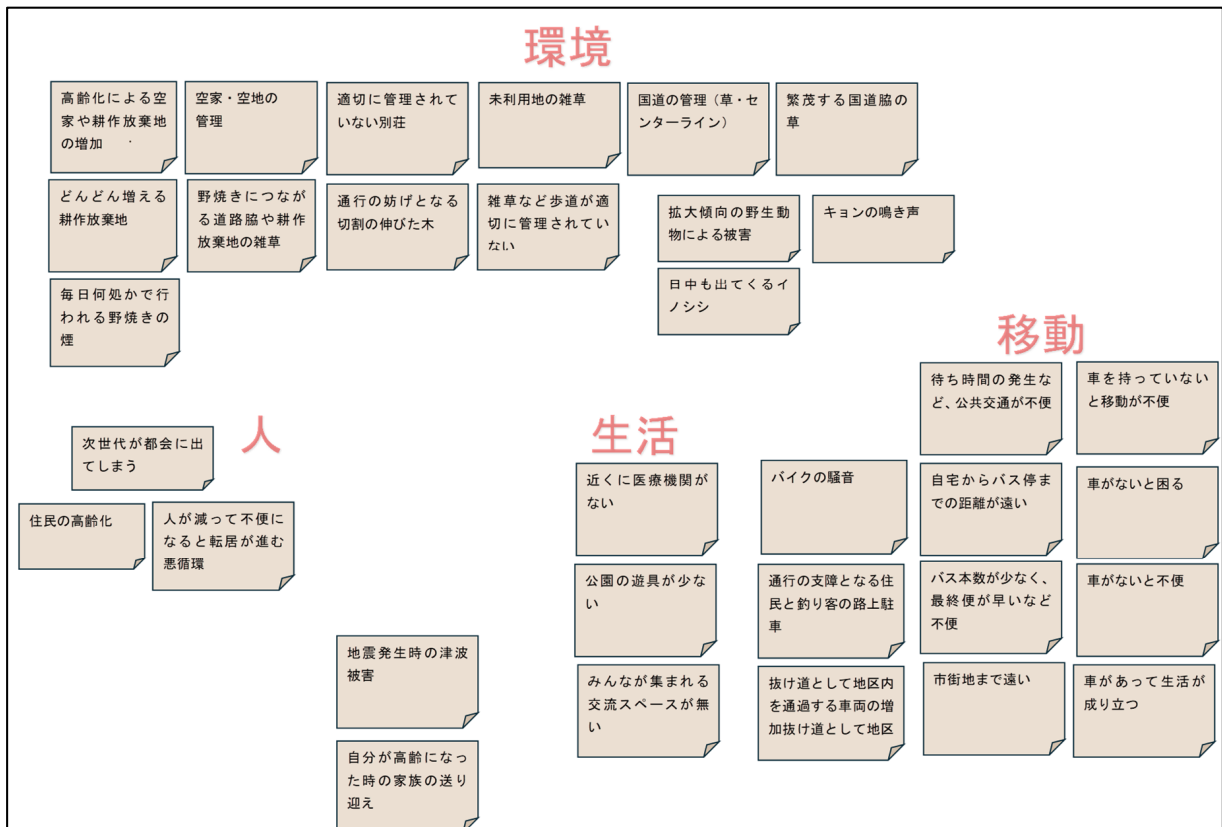
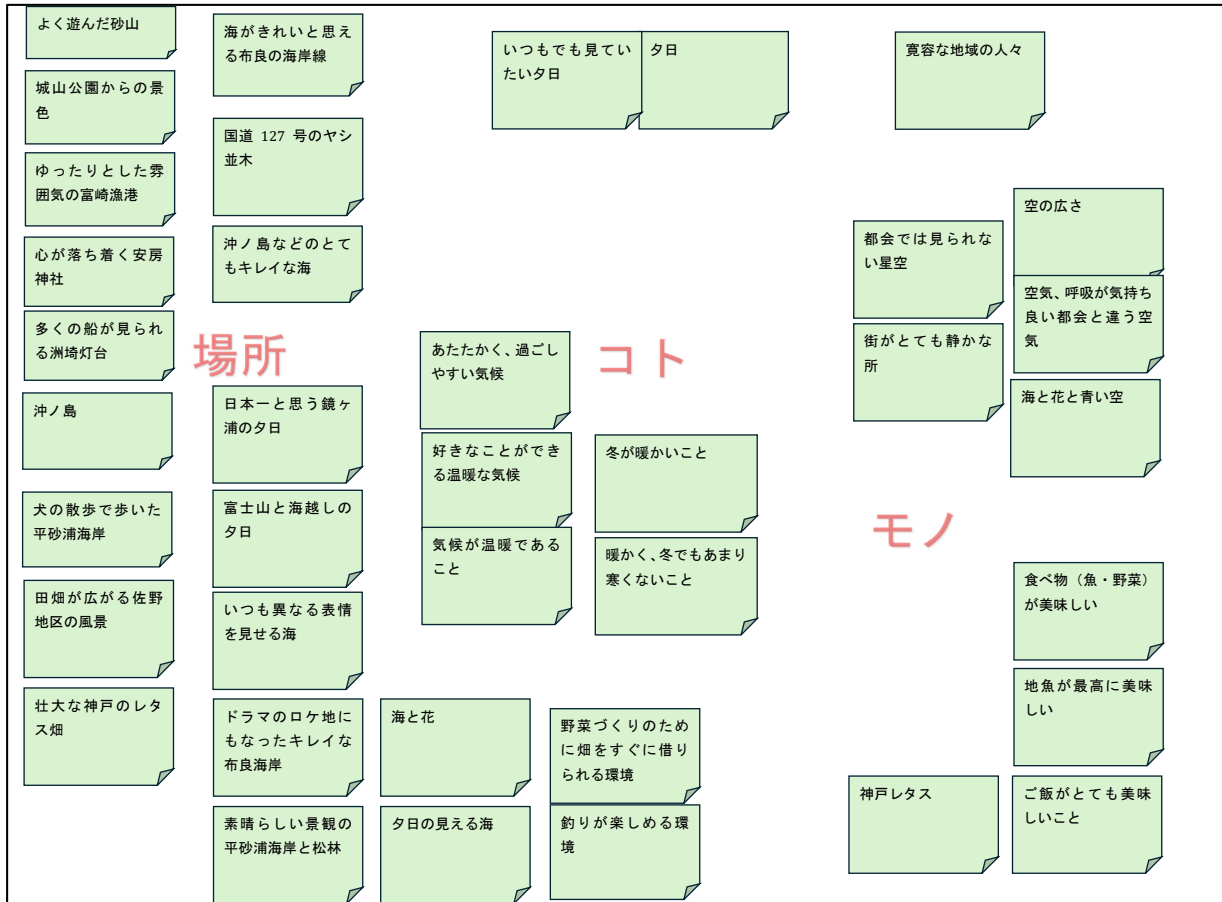
▶ 館野・九重地区

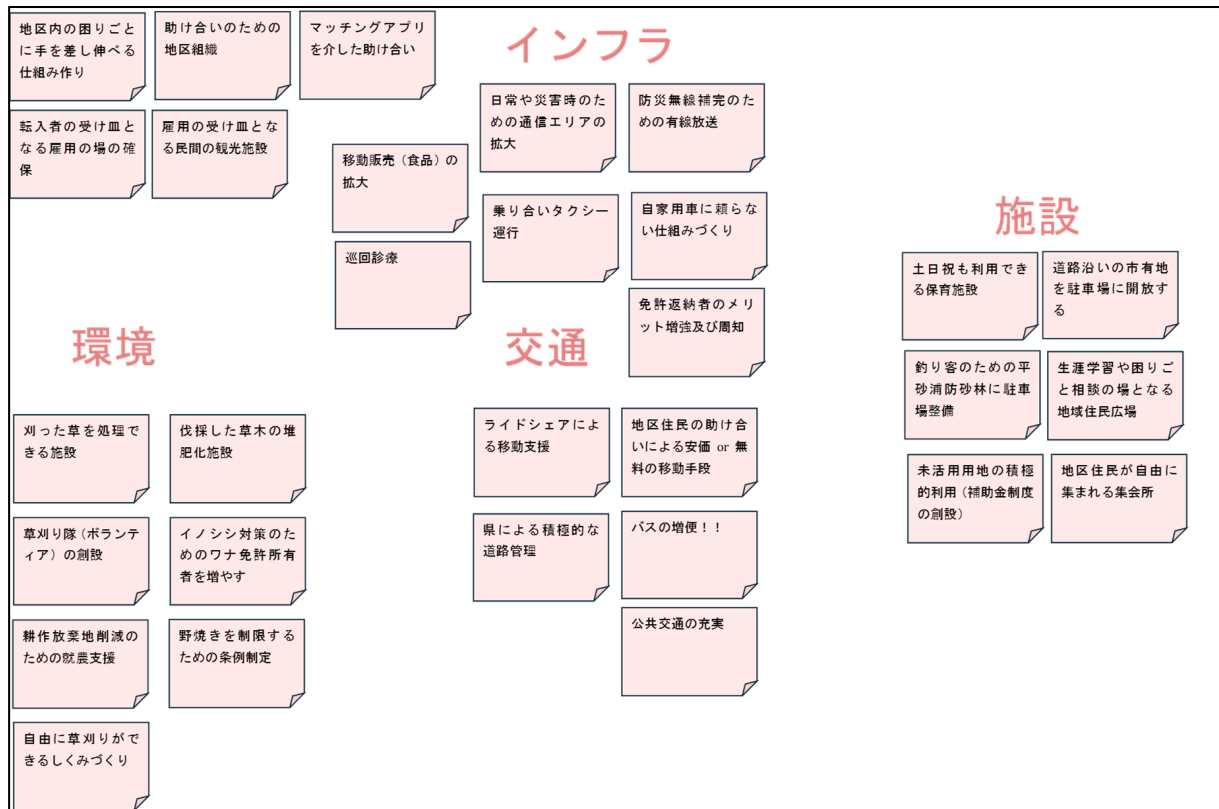
【出された意見の相関図】



▶ 神戸・富崎地区

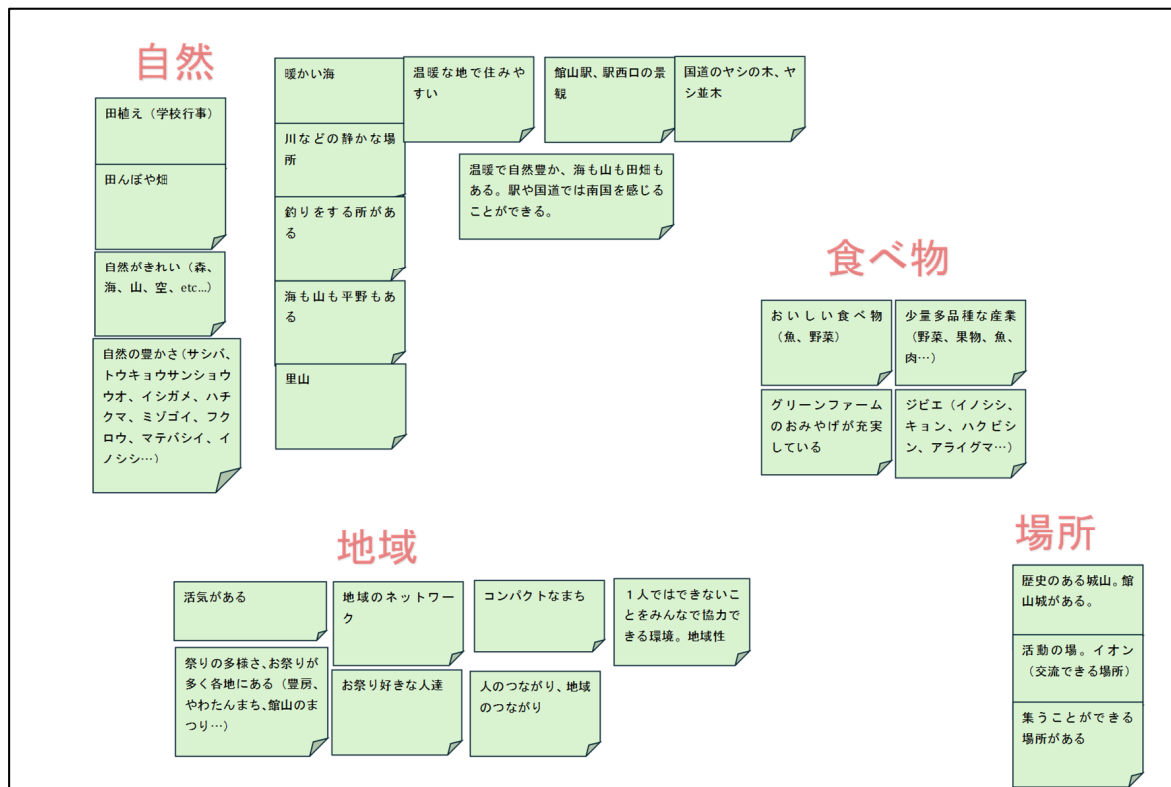
【出された意見の相関図】





▶ 豊房地区

【出された意見の相関図】



### 人口

- いろいろな仕事が無い
- 子どもたちが帰ってこない
- 若い人が少ない(青年、消防)
- 農家のお嫁さん問題
- 過疎化。だんだん人が少なくなってしまう。
- 祭りをやる人が少なくなっている。祭りの維持が困難。
- 地域のつながりの希薄化
- 移住できる家が少ない
- 跡継ぎがない。仕事・行事・地区の作業が続けられなくなってきている。

### 道路

- 歩みにくい
- 道がせまいが大きい車が通る
- 通学路が狭く危険な所がある
- 道路改修(側溝)が整備されていない。猪に荒らされたまま
- 整備されていない道もある
- 歩くことが困難な道路状況

### 交通

- バス停までの距離が長い。バスや電車に乗るまで車で15分ぐらいかかる。
- 電車の本数が少ない。通院にバスの便が少ない。
- 歳をとってから車がないと困る
- 車が無いと生活できない。バスが不便。
- 買い物に足らない(高齢者)
- 交通の不便さ。車がないと移動しにくい
- 車社会(コスト、子どもの足、飲めない)

### 環境・自然

- ポイ捨て・不法投棄
- 耕作放棄地の増加
- 自然に無関心
- 山や川が多いから自然災害が多い
- 獣害
- 自然の維持・保全に目が向いていない。

### 意識

- 市が、住民が稼ごうつもりがない
- 活動資金の不足
- 新しい取組がしづらい
- 近所のサービス精神が豊富すぎる
- 市の未来に無関心
- 住民の温度差が激しい

### 買い物・遊び

- 遊ぶ場所が少ない
- 自然の多い場所と店の多い場所が遠い
- 近くにお店がほとんどない
- 店舗が無いだけでなく、車以外の手段がない。

### 未来像

- ・シビックプライドを高める一祭、自然の豊かさ、歴史の認識を高める
- デジタル大学を作る
- 市長 YouTube (地域の魅力、政治、経済など)
- ・経営を教える(地域の事業者に学ぶ) ↑↑学校での授業の一環として取り入れる
- 5G+デジタル先端都市を目指す(決済、ITエンジニア、メタバース、EC、学習、ゲーム…)
- 地元新聞デジタル?(情報共有・老若男女)
- 市を・地域を知る教育、デジタルを活用した生活環境の構築を目指す。

### 人と触れる・人が集う

- 遊ぶ場所を増やす
- 中高学年児童の集う場所
- 学校プールの開放(見守りの問題もある)
- みんなと話し合い世間話をする場所(サロン活動)を設置
- 田舎えや稲刈りなど、自然と触れあう機会を増やす!
- 意見を言いやすい場作り(市民と行政が双方向に)
- 地域が集まることができる場の整備

### インフラ・交通

- 道路整備!
- 通学路の整備
- 電車やバスの本数を増やす!!
- タクシー、サービスのサブスクー移動手段の確保&雇用の増
- 車道・歩道の整備、公共交通機関の充実
- コミュニティバス送迎(ボランティア組込型)ライドシェア
- 地域住民が利用しやすい公共交通機関
- 自動運転(交通・物流…)

### 自然

- 地域資源研究センターの設置(里山に眠る宝探し)
- 自然の豊かさを見直す
- 全員でポイ捨てされたゴミをひろう
- 今ある資源を維持・活用する

### 人を呼ぶ

- 耕作放棄の場所を他県の人達への体験の場にする
- 都会のリスクヘッジ貸し土地(農地など)
- 二地域居住⇄空き家マッチング(ちゃんと手数料を得る)
- 温暖な環境を利用して会社を誘致する
- 小規模特認校を生かした子育て世代移住者増
- 市外の人が集まるイベントを企画する
- 企業・移住者の誘致

### その他

- 巡回診療車 医師が乗車して各地区を回ってくれるシステム

## ◇まちの将来像に係る高校生アンケート結果

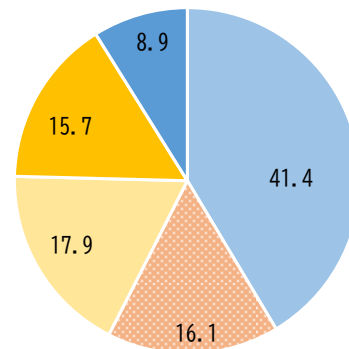
### (1) 調査概要

調査対象	館山市内及び近隣市内の高校に在学の生徒 (館山総合高校、安房高校、安房西高校、安房拓心高校)
調査の目的	次代を担う世代である高校生に、「館山市が10年後に目指すべき姿」について意見を訊くため。
調査方法	WEB 回答
調査時期	令和7年4月16日(水)～4月30日(水)
回答数	560人

### (2) 調査結果

#### 館山市内に居住する高校生

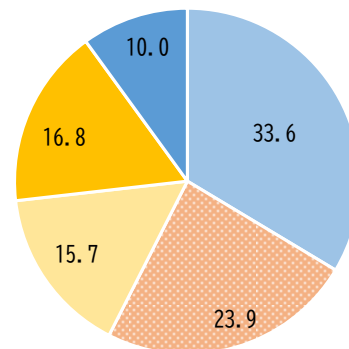
n=280 %



- みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しいまち・館山
- みんなで未来をつくるまち 館山
- 自分らしく暮らせるまち たてやま
- 人がつながり ともに織りなす 魅力あるまち
- ともに育み ともに織りなす 魅力あるまち

#### 館山市外に居住する高校生

n=280 %



- みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しいまち・館山
- みんなで未来をつくるまち 館山
- 自分らしく暮らせるまち たてやま
- 人がつながり ともに織りなす 魅力あるまち
- ともに育み ともに織りなす 魅力あるまち

# ◇第4次館山市総合計画『後期基本計画』にか かる政策評価の概要

## (1) 政策評価のねらい

現行の第4次館山市総合計画『後期基本計画』の実施状況や効果、課題等を整理し、達成度、優先度、今後の方向性を明確化することで、限られた行政資源（ヒト・モノ・カネ）を適切に配分し、より実効性の高い第5次館山市総合計画『前期基本計画』『実施計画』を策定することを目的として実施します。

## (2) 政策評価の視点

### 【評価全体の視点】

市民への説明責任を果たすため、正確でわかりやすい記載に努め、評価結果を公表します。

### 【政策・施策に対する視点】

目的や目標に対する各事業の必要性・有効性・効率性などを勘案し、第5次館山市総合計画『前期基本計画』『実施計画』策定への展開を十分に検討します。

### 【事務事業単位での視点】

評価に際しては、事業のPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）を意識するとともに、担当課職員全体で情報共有し、職員の意識改革と事業実施の改善を図っていきます。

## (3) 評価の流れ

①1次評価（暫定版）：課長評価

②1次評価（確定版）：部長評価

③2次評価：政策評価委員会（委員長：市長）による評価

1次評価に対する総合的な評価

④3次評価：政策評価委員会による再評価

1・2次評価結果の見直しを行った上で、市としての優先度を決定する。

また、3次評価の結果を第5次館山市総合計画『前期基本計画』の事業に反映することとする。

⑤政策評価の総括：政策評価委員会による再評価（※実施時期：令和8年7月頃を予定）

第4次館山市総合計画『後期基本計画』の計画期間満了となる令和7年度末における時点修正（実施状況・効果・課題等）を行い、当該内容を踏まえて最終達成度を決定する。

## ◇用語解説

索引	用語	解説
A	AI (エーアイ)	Artificial Intelligence (人工知能) の略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラムを指す。AI の代表的な技術として、人間の学習に相当する仕組みをコンピューター等で実現する「機械学習」と、人間の脳が持つ神経回路の仕組みを取り入れたニューラルネットワークを用いて行う機械学習である「ディープラーニング (深層学習)」がある。
D	DX (デジタル・トランスフォーメーション)	外的環境の変化を踏まえ、先進的デジタル技術の活用を通じて組織の構造や文化、また構成員の意識を改革することにより、新たな価値を創出し、組織間競争における優位性を確立すること。
G	GX (グリーン・トランスフォーメーション)	経済・社会構造を、化石燃料中心から再生可能エネルギー中心・低炭素型へ抜本的に転換し、脱炭素化と経済成長を両立させる変革のこと。
I	ICT (アイシーティー)	Information and Communication Technology の略で、IT (情報技術) の概念を更に一步進め、IT に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉で、情報通信技術を指す。
Q	QOL (キューオーエル)	Quality of Life の略で、「人生の質」や「社会的に見た生活の質」を指す。主に医療や福祉の分野において、療養している患者が身体的、精神的、社会的、経済的な面で納得のいく生活を維持していくことを目指す考え方。
S	SDGs (エスディー・ジーズ)	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略。2015 年の国連サミットで採択された、2030 年を期限とする国際社会全体の開発目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、広範な課題に統合的に取り組むこととされており、17 のゴール (目標) と 169 のターゲットが設定されている。
	Society5.0 (ソサエティ 5.0)	「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、政府が提唱する目指すべき未来社会の姿。サイバー空間と現実世界を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を指す。
あ	空家バンク制度	空き家を「売却したい・貸したい」と希望する空き家所有者からの申し込みを受け付け、その空き家の情報をホームページ等で公表し、空き家の利用を希望する者とのマッチングを行う制度。
い	イノベーション	「革新」や「刷新」「新機軸」等を意味する言葉で、従来の仕組みや考え方に対して革新的なアイデアや技術を取り入れ、新たな価値を生み出すこと。
	インバウンド	「入ってくる・内向きの」という意味で、一般的には外国人が訪れてくる旅行のこと。
う	ウェルビーイング	身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

索引	用語	解説
お	オープンデータ	行政機関等が保有するデータを、二次利用可能なルールのもと、市民や企業等が利活用しやすい形で公開すること。また、そのように公開されたデータ。
か	カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。
	環境学習	環境問題についての知識を身につけるだけでなく、人と環境との関係性、環境と社会、経済及び文化とのつながりについての理解を深め、問題解決に向けて行動できる人を育てるための教育・学習のこと。
	関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様な関わりをもつ人々のこと。人口減少や高齢化による、地域の担い手不足という課題を解決する人材として期待されている。
	観光入込客数	日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者を数えたもの。
	観光地域づくり法人 [DMO (Destination Management/ Marketing Organization)]	地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現する戦略の策定と戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。
	官民連携	行政と民間事業者等が連携し、民間の持つ多種多様なノウハウや技術を活用することにより、行政サービスの向上、財政資金の効率的使用や行政の業務の効率化等を図ろうとする考え方。
	学童クラブ	主に、保護者が就労等により日中家庭にいない小学生児童(＝学童)に対して、放課後等に、適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を図る事業。
き	企業版ふるさと納税	地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について、法人関係税を税額控除する仕組み。
	協議体	介護保険法に定める、自立した日常生活を支援する体制整備を行う事業において市町村が設置する会議体であり、地域で高齢者を支援する関係者間のネットワークづくりを目的とし、定期的な情報共有・連携を強化する場のこと。 市全体を対象とする「第一層協議体」と、地区単位を対象とする「第二層協議体」の2種類がある。
く	クラウドファンディング	インターネットを通じて不特定多数から資金を募る仕組み(プロジェクト型・寄附型等)。
	グローバリゼーション	国境を越えて人・物・資本・情報が自由に行き交い、世界の経済・文化・社会が相互に結びつき、一体化していく動きのこと。
け	ケアプランデータ連携システム	介護事業所における文書作成負担軽減のため、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所間でやりとりされるケアプランをオンラインで送受信するシステム。
	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。

索引	用語	解説
け	元気がでる体操教室	住民同士のつながりを深め、お互いに助け合える地域づくりを目的として行われている通いの場のうち、主に健康的な身体作りや、介護予防を目的とした体操等を行っている通いの場のこと。
	元気な広場	妊婦や乳幼児とその保護者が自由に利用できる屋根付公園として、平成 21 年 4 月に開館した子育て支援拠点施設。「ファミリー・サポート・センター」を併設している。
こ	公共ライドシェア	バス・タクシー事業が成り立たない場合であって、地域における輸送手段の確保が必要な場合に、必要な安全上の措置をとった上で、市町村や NPO 法人等が、自家用車を用いて提供する運送サービス。
	交流人口	観光など、様々な目的をもって、市外から訪れる人の人数。市内に在住する「定住人口」に対し、流動的に市内に訪れる人口を示す概念。
	婚姻率	人口千人に対する婚姻件数の割合。
	コンパクト・プラス・ネットワーク	人口減少や少子高齢化を背景に、快適な生活環境の実現や財政面・経済面で持続可能な都市経営を目指し、公共施設や住宅等の立地を集約化し（コンパクト）、これらを公共交通等でつなぐ（ネットワーク）という、都市構造の考え方。
	合計特殊出生率	「15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当。
さ	再生可能エネルギー	「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律」において、「エネルギー源として持続的に利用することができる」と認められるもの」とされており、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマス等が定められている。
	サテライトオフィス	企業または団体の本拠から離れたところに設置されたオフィス。
	里見氏城跡 稲村城跡	館山市稲にあり、戦国時代から江戸時代まで、房総南部を拠点とした里見氏が本拠とした城跡。稲村城は、16 世紀前半、3 代義通が居城とした城で、4 代義豊が 5 代義堯に攻め滅ぼされた「天文の内乱」の舞台となった。
	里山	集落、人里に接した山、あるいはこうした地形において人間の影響を受けた生態系が存在している状態を指す。
	財政調整基金	自治体における年度間の財源の不均衡を調整し、財政の健全な運営を図るための基金。
し	市街地循環バス	市街地の回遊性向上を図るため、JR 館山駅から半径おおむね 2km 圏内の施設に便利にアクセスできるよう運行。令和 5 年 6 月より本格運行を開始した。
	資源循環型社会	限りある資源を効率的に利用するとともに、再資源化を図り、持続可能な形で循環させながら利用していく社会。

索引	用語	解説
し	シティプロモーション	地域資源に磨きをかけ、市の新たな魅力を創出するとともに、市内外へ情報発信し、知名度とイメージの向上を図ることで、交流人口の増加や市民の「地域への誇りと愛着心」の醸成につなげることを目的とした活動。「シティセールス」と同義的に使用されることも多いが、ここでは、市の「魅力創出」に対する取組や「対内的な」視点も含むものとして使用する。
	シビックプライド	自分が暮らすまち・地域に対する誇りや愛着を持ち、まちづくりに主体的に関わろうとする当事者意識を持つこと。 ※「シビックプライド/CivicPride」は、株式会社読売広告社の登録商標です。
	市民協働	市民や各種団体、事業者、行政が、それぞれ果たすべき役割を自覚し、互いの存在意義と特性を認めた上で、相互の信頼関係に基づき対等の立場で協力し、より良いまちづくりに取り組むこと。
	ジェンダー	生物学的な性差 (sex) に対して、性別に基づいて社会的・文化的に要求される役割等の社会的性差を指す言葉として用いられる。そのため、時代や文化によって定義が変化する。
	自助・共助・公助	防災用語。自助：自分自身で自分の身を守ること。共助：自主防災組織や町内会等、地域の結束力を生かして助け合うこと。公助：市役所や消防・警察等、公的機関による救援・復旧活動等の支援。更に自助と共助の間に近助（隣近所同士で助け合うこと）が入ることもある。
	自治体DX	急速な人口減少が見込まれる中、自治体がデジタル技術やデータを活用して住民の利便性を向上させるとともに、業務を効率化して人的資源を行政サービスの向上のために投入することにより、持続可能な行政運営を図ること。
	常住人口	直近の国勢調査による人口及び世帯数を基準として、これに毎月の住民基本台帳の増減数により集計したもの。
す	スポーツ観光	スポーツイベント等、スポーツそのものを「観る」・「する」ことを目的とした旅行。また、スポーツを「支える」人々との交流やスポーツ環境の整備、競技大会の招致・開催、スポーツ宿泊誘致等、スポーツに関連した交流人口の拡大及び観光誘致戦略の概念も含まれる。
	スマート農業	ロボット技術やICTを活用して、省力化・精密化や高品質化の実現を推進する新たな農業。農業の担い手の高齢化や労働力不足が深刻となっており、スマート農業を活用することによって、新規就農者の確保や栽培技術力継承等が期待される。
せ	生物多様性	多くの生きものがいること、また、それらが様々な環境でつながりあって生きていること。
	ゼロカーボンシティ (脱炭素都市)	2050年までに、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を公表した地方自治体。
そ	相談支援事業所	障害者やその家族から相談を受け、アセスメントのうえ助言や情報提供、支援にかかる計画の作成、関係機関との連絡調整、モニタリングとフォロー等を行う事業所のこと。

索引	用語	解説
た	館山海軍航空隊赤山地下壕跡	館山海軍航空隊の防空壕で、工作科格納庫・治療施設・発電所等を備えていた。建設時期は不明だが、防空壕として使用しながら終戦まで工事が続けられていた。館山市を代表する戦争遺跡である。
	たてやまフィールドミュージアム	館山市立博物館が開館以来収集してきた地域の歴史や文化財の情報を紹介するウェブサイト。博物館で開催した企画展図録の概要や、地域の文化財を地図と解説で紹介する文化財マップが掲載されている。
	館山ブランド認定制度	地域内の優れた一次産品・加工食品について「1. 特徴及び品質」「2. 地域性」「3. 市場性・将来性」「4. 信頼性・安全性」の4点を審査し、「館山ブランド」として認定する制度。
	多文化共生	国籍や民族、宗教、言語等、異なる文化をもつ集団が存在する社会において、それぞれの集団が互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくという考え方や政策。
	ダイバーシティ	性別、人種、国籍、宗教、年齢、学歴、価値観等の多様性を受け入れ、広く人材を活用しようという考え方。多様な人材がその実力を最大限に発揮することにより、組織や社会の発展、個人の幸福につながることを期待される。
	脱炭素化	地球温暖化対策のため、二酸化炭素の排出を低減していくこと。
	男女共同参画社会	男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、共に責任を担う社会。
ち	地域活動支援センター	障害者等を対象とし、地域の実情に応じて創作的活動や生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等のサービスを提供する通所施設。
	地域循環共生圏	地域資源を活用して、環境・経済・社会の統合的向上を実現する事業を生み出し続けるとともに、地域の個性を生かして、地域同士で支え合うネットワークを形成していくという「自立・分散型社会」を示す考え方。
	地域包括支援センター	「介護保険法」に基づき、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする、各市町村が設ける機関。
	超高齢社会	65歳以上の高齢者の割合が人口の21%を超えた社会のこと。

索引	用語	解説
て	テレワーク	ICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。「tele =離れたところ」と「work =働く」を合わせた造語で、働く場所によって、自宅利用型テレワーク（在宅勤務）、モバイルワーク、施設利用型テレワーク（サテライトオフィス勤務等）の3つに分けられる。 テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごす「ワーケーション」(「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語)と呼ばれる働き方も注目されている。
	伝統的工芸品	『伝統的工芸品産業の振興に関する法律』に基づく経済産業大臣の指定を受けた工芸品。平成15年3月17日に、「房州うちわ」が千葉県内初の指定を受けている。
と	特定空家等	そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる建物、植栽、擁壁等を指す。
	特定健診	生活習慣病の予防のために、40歳～74歳を対象とするメタボリックシンドロームに着目した健診のこと。
に	二地域居住	都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を地方で暮らす等、2つの地域に生活拠点を持つ生活形態。
	認知症サポーター	認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職域で、認知症の人や家族に対し、温かく見守る応援者となり、できる範囲での手助けをする人。都道府県、市町村、職域団体等が実施する認知症サポーター養成講座を受講した者を指す。
	認定農業者	「農業経営基盤強化促進法」に基づく「農業経営改善計画」について、市町村の認定を受けた農業経営者。認定を受けると、金融措置や税制措置等の支援を受けることができる。なお、経営改善計画は5年間の計画であり、認定を受けてから5年経過した場合、再度計画を提出して再認定を受けないと認定農業者の資格を失う。
ひ	ビッグデータ	従来のデータベース管理システム等では処理困難であった巨大で複雑なデータ群。単に大容量だけでなく、非定型的でリアルタイム性の高いデータが多い。
ふ	4R (フォーアール)	Reduce、Reuse、Recycle、Repairの4つのRの総称。 Reduce：製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。 Reuse：使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。 Recycle：廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効活用すること。 Repair：修理等で長く使えるものを増やすこと。
	ふるさと納税	納税者が応援したい（またはゆかりのある）自治体を選んで寄附でき、その寄附に対して所得税・住民税の控除が受けられる制度。

索引	用語	解説
ふ	フレイル	加齢により心身が老い衰えた状態のこと。早く治療や予防などの対策を行えば、元の健常な状態に戻る可能性がある。
ほ	放課後子供教室	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、地域住民の協力によって、子どもたちが学習やスポーツ・文化活動等ができるように支援する取組。
	房州うちわ	安房地域で受け継がれてきた千葉県を代表する工芸品で、経済産業大臣指定の「伝統的工芸品」。京うちわ（京都府京都市）、丸亀うちわ（香川県丸亀市とその周辺地域）と並ぶ、日本三大うちわの一つ。
ま	マイナンバーカード	マイナンバー（個人番号）が記載された顔写真付のカード。ICチップ付カードで券面に氏名、住所、生年月日、性別、マイナンバーと本人の顔写真等が表示されている。
み	みなとオアシス	海浜・旅客ターミナル・広場等、みなとの施設やスペースを活用し、住民参加型の継続的な地域振興を行う交流拠点について、申請に基づき、国土交通省港湾局長が登録を行うもの。
ゆ	ユニバーサルデザイン	年齢、性別、文化、個人の能力を問わず、誰もが可能な限り利用しやすいように、特別仕様のデザインをすることなしに、製品、建築物、環境をデザインすること。
れ	レファレンス	図書館利用者が学習・研究・調査を目的とし、情報や資料等を必要とした際に、司書が検索・提供・回答をすること。また、需要の多い質問に対して、あらかじめ資料を準備、作成する作業。
ろ	6次産業化	農林水産物を収穫・漁獲（第1次産業）するだけでなく、加工（第2次産業）し、流通・販売（第3次産業）まで手がけること。
わ	ワーケーション	ワーク（労働）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語で、テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。